

# アイデア・プロレスコラム MANIA・X (マニアックス)

岡本 悠 Okamoto Yu

## 『道』 ～アントニオ猪木引退試合の言葉～

この道を行けばどうなるものか 危ぶむなかれ  
危ぶめば道はなし  
踏み出せばその一足が道となり その一足が道となる  
迷わず行けよ 行けばわかるさ

### 一休和尚（作者、諸説あり）

私は、今、この作品・本を出版社に出して、完成させて売るか、発売することをやめるかに迷っている。昔、亡くなった私の母方の父の、私の祖父は、母が2つのものを五分五分くらいでどうしようか迷った時に、「どちらを選んでも正解だよ」と教わったと、母が私に言ってくれたことがある。

出版社で、また出すことにしたら2回目になるが、1回目を出したあと、私的にはあまり変化がなかった。やはり、やっているうちはいいけど、やり終わったら空虚感になるだろうな、というのが当たった。正直、今の段階では1回目の本の売り上げを待ってから検討するのがいいという判断で、様子を見ている。

前述したが、「道」という題の一休和尚が書いたと言われる、アントニオ猪木の引退試合の言葉は、こういう時、真剣に考えれば為になる。特に「危ぶむなかれ」とか「迷わず行けよ」「行けばわかるさ」。他にも、猪木がよく行っていた言葉は「一步踏み出す勇氣」というものもあった。最近では、猪木は、「夢は持たない人が多いんだよ。だって、夢を持つのはエネルギーがいる大変なことだから」というようなことも語っていた。

私は、ただ単に、前回の1回目の出版に続いて、2回目の出版をおこなうかどうかに日々囚（とら）われている。もちろん、一番のネックはお金がかかるということだ。それから、2回目の作品はワードなどで形はほぼ出来上がっている。だから、出版社に渡したら、完成まで時間がかかることもそんなにない可能性もある。あとは、2回目の作品を出したら、本屋や Amazon、電子書籍などでどれだけ売れるかはわからないが、個人で売る段ボールの中の本が大量に溜まってしまう可能性があることだ。そして、また出版が終わってしまえば、今と同じような空虚感に押しつぶされそうになるかもしれない。

でも、それも、猪木の言葉ではないが、踏み出してやってみてから考えればいいのではないか？ という考えも浮かぶ。

しかし、これは逃げではなくて、大金をはたいて同じことを繰り返すなら、個人的に本を作って、プロレスのわからない方にも、無料でプレゼントするほうがそのやり方もいいのではないか？ と考える。

逃げていかもしれないけど、2回目は出版社では作らずに、そのやり方で評判を聴いた上で、出版社に持っていってもいいし、とりあえず活動をストップしてもいいだろう。（終）

## まえがき

今回の本は、「アイディア・プロレスコラム MANIA・X (マニアックス)」という作品で、前回の幻冬舎から初の商業書籍化した「アイディア・プロレスコラム DX (デラックス)」に続く作品だと思ってもらえればいい。時期は、「2019年7月、下半期」～「2020年6月、上半期」のプロレスコラムを書き続けた中から、64 作品を選んだ。前回は、自分のこと、つまりプライベートな内容もたくさん書いたが、今回は、マニアックスという通り、プロレスのことを中心にやや専門的に書いている。

軸になってくれたのは、第1章などで多く登場するクリス・ジェリコというプロレスラーの存在がいたことが大きい。この選手がいたおかげで、モチベーションになったし、ジェリコだけで1章をだいたい書くことができた。

読んでいただければわかるが、プロレス界ではたくさんの選手が引退や、退団をした。

例えば、WWE (ワールド・レスリング・エンターテインメント) のジ・アンダーテイカーは現役引退。

同じく WWE からは、ベッキー・リンチが妊娠を理由に多分、とりあえずの離脱だと思う。

更に、WWE で日本人のカイリ・セイン (元、スターダムでは、宝城カイリのリングネーム) は、まだ正式な発表はない。WWE 離脱とあり、理由はわからないが、友好的な離脱だろう。今回は突然のニュースだった為、この本にはカイリの離脱については触れていないが、私は、1 番好きな女性選手だったので、見られなくなるということは残念だ。でも、いつかどこかで、無理なくサプライズで登場してくれることを期待している。

そして、日本の女子プロレス団体、スターダムからは、怪我で星輝ありさが引退した。日本の国内の団体では、1 番好きな女子選手だったので、しょうがないが、とても寂しい。

有名なところでは、新日本プロレスから、獣神サンダー・ライガーも引退した。

この本を作るにあたって、最初は1章、2章で合計39枚の選手のコラムを書いたのだが、それを一気に読んだあと、次の章を読むとなると、私自身読むのが疲れる感覚があった。だから、選手のコラムを、違うコラムの章の間に割り振れば、一気に疲れないはずだ、と考えた。これは読者がどう感じるかによると思う。あと、もしかしたら選手の紹介より、コラムがもっと並んでいるほうが楽しいという感覚もあるかもしれないが、私は、今回はジェリコを含め、選手のことを書くコラムにこだわった。

基本は、WWE、AEW (オール・エリート・レスリング)、新日本プロレス、スターダムの4団体が中心の本になったが、少なからずそれ以外の団体のコラムもある。

読者の方には、是非、楽しんで読んでいただきたいし、プロレスを味わって欲しい。(終)

## 目次 Contents

### 1. JJ & クリス・ジェリコ & AJスタイルズ、粋。……007

- ①ジェフ・ジャレット、クリス・ジェリコ、AJスタイルズについて。
- ②クリス・ジェリコは、「カナダのX JAPAN 大使」を自称している。
- ③FOZZY — BON JOVI。(クリス・ジェリコ — ジョン・ボン・ジョヴィ)。
- ④クリス・ジェリコ — “アイアン” マイク・タイソンと大乱闘！ 大運動会状態！
- ⑤クリス・ジェリコの、AEW、ヒール（悪玉）ユニット「インナーサークル」について。
- ⑥2020年1月5日の、スーパースター対決。クリス・ジェリコ — 棚橋弘至。
- ⑦新日本プロレスは、クリス・ジェリコをちゃんと1回、IWGPヘビー級王者にすべき！
- ⑧クリス・ジェリコは、日本のプロレスの「プロレス最強説」には否定的。
- ⑨AJスタイルズを愛している。
- ⑩WWEの、AJスタイルズ率いる、OC（ユニット）はカッコいい。

### 2. WWE の、男女スーパースターズ（プロレスラー）。……018

- ①「フレッド・ブラッシー自伝」についての考察。「この変態野郎ども！」。
- ②ジ・アンダーテイカーの現役引退について。デッドマンはカッコ良かった！
- ③トリプルHは、勝たれたままでは終わらない。必ず1回は“復讐”する。
- ④中邑真輔とは、まさにジャパニーズ・エンターテイナーである。
- ⑤“ストーンコールド” スティーブ・オースチンとは何か？
- ⑥ブレイ・ワイアットとは、新種の怪奇派である。
- ⑦とにかく、カイリ・セインが大好き、大ファン！
- ⑧ベッキー・リンチ（レベッカ・クイン）とは、オレンジ色の髪の毛の、小柄な女の子。
- ⑨Sareee（サリー）の、WWEへの挑戦が決定！モチベーションは何か？
- ⑩“NXT UK”所属。トニー・ストームは、カッコいいロックンロール女性！

### 3. ビッグマッチ・大会。……029

- ①WWE “レッスルマニア 36” を、見ての感想と苦言！ 必殺技だけの連発決着は廃止しろ！
- ②G1 CLIMAX 29。飯伏幸太の優勝と、感想！
- ③新日本、2020年、1月4日、東京ドームは、オカダと内藤が勝ち上がり！感想！
- ④新日本、2020年1月5日、東京ドーム。内藤哲也2冠王獲得も KENTA が襲撃！感想。

⑤ジュリア、シンデレラトーナメント優勝！ 朱里との同門対決制し、粘る刀羅ナツコ破る！

#### 4. AEW の、男女プロレスラー。……035

①AEW のダービー・アリンと、オレンジ・キャシディについて。将来有望な2人！

②謀略家、MJF (マックスウェル・ジェイコブ・フリードマン) について。

③AEW、サミー・ゲバラ、マイク・タイソンの大乱闘に興奮！ クリス・ジェリコの弟子。

④ダスティン・ローデス (WWE ではゴールダスト) は、メインイベンターとして使うべき！

⑤ジョン・モクスリー (元 WWE、ディーン・アンブローズ) は、今、最強である！

⑥志田光、優しそうな美しい女性。第3代 AEW 女子世界王者。

⑦AEW のペネロペ・フォードは、美貌で、超セクシー！ あとはレスリングの実力だけ。

#### 5. 事件。……043

①TPG (たけしプロレス軍団) とは、何だったのか！？

②「ローマン・レインズ襲撃事件」の黒幕と、犯人は誰なのか？の、ここまで。

#### 6. 新日本プロレス & スターダム、男女プロレスラー。……047

①飯伏幸太は破天荒ながら、IWGP ヘビー級王座を獲得する日が待ち遠しい。

②タイチは、さまざまなギミックと、往年のレスラーのコピーで、実にミステリアス！

③朱里 ~モノが違う女~ UFC 日本人女子ファイター初勝利者。

④ビー・プレストリー。スターダム No.1 外国人について。「全てがアベレージ以上ですね」。

⑤星輝ありさの、プロレス引退について (お疲れ様です。本当にありがとう)。

⑥スターダムのアイコン、岩谷麻優という平和！

⑦鹿島沙希 (スターダム) という、キレイすぎる大江戸隊のヒール (悪玉) ！

#### 7. プロレスに思うこと。……055

①WRESTLE-1 GP 2005。柴田勝頼の秋山準への、顔面キックで出血はやりすぎ！

②IWGP 三冠 (ヘビー、IC、US ヘビー) 統一王座構想！

③鈴木みのる。外敵軍、真猪木軍、のような、4番でエースの寄せ集めユニットもまた見たい！

④アメリカンプロレスの実況は、技の名前を変えすぎではないか？

- ⑤ジョン・モクスリーとランス・アーチャーの、スーパーヘビー級の戦いは面白かった！
- ⑥NWA Power について。(NWA も強引に復活なのか?) スリングブレイドはなしだろ！

## 8、フリー & トリビュート & CMLL、男女プロレスラー。

……062

- ①最近のグレート・ムタの、水戸黄門のような戦いにハマる。
- ② “生傷男” ディック・ザ・ブルーザーの貫禄について！
- ③スコット・スタイナーは、最凶の力こぶを持つ、銀色の番犬！
- ④プロレスラー、アレックス・ハマーストーンは、私の中でドラフト1位の逸材！
- ⑤下田美馬の、猛武闘賊 (ラス・カチョーラス・オリエンタレス)、“美しき女豹”。

## 9. コラム。……068

- ①ASUKA とビル・ゴールドバーグの連勝記録！ピート・ローズとイチローの通算安打記録！
- ②ランディ・オートンの、ゆったりとした“間”と“リズム”は、誰にも真似できない！
- ③オースチン、ホーガン、スティング、ブレット、マイケルズの5人だけの空間！
- ④棚橋弘至、オカダ・カズチカの、IWGP ヘビー級王座を背負う重圧。
- ⑤武藤敬司、棚橋弘至の、プロレスラーが映画で演じるのは難しいこと。
- ⑥ベッキー・リンチ妊娠！ よって ASUKA がロウ女子チャンピオン、女子部門制覇！
- ⑦WWE を継ぐのは、マクマホンか？ レヴェックか？
- ⑧ASUKA は落語家前座で笑わせる。カイリ・セインの縦笛。柴雷イオ NXT 女子王座戦間近。
- ⑨柴雷イオ、遂に WWE のタイトル初獲得、NXT 女子王者へ！
- ⑩大仁田厚の、「電流爆破にぶつからなかった長州力はチキン！」発言。
- ⑪アントニオ猪木 対 ビンス・マクマホン。(プロレスラーとして、経営者として)。
- ⑫私は、オカダ・カズチカが、チャンピオンではなくても、チャンピオンと呼ぶ。

1. JJ & クリス・ジェリコ & AJ スタイルズ、粋。

2019年9月10日（火）

ジェフ・ジャレット、クリス・ジェリコ、AJスタイルズについて。

この3人に共通するのは、そこまで身長があるわけではなく、金髪や茶色い髪の外国人レスラーということである。ジェリコだけがカナダ人で、他の2人はアメリカ人。私が特に好きな外国人レスラー3人を挙げてみた。

・ジェフ・ジャレット

WWE（ワールド・レスリング・エンターテインメント）の殿堂入りを果たしたスーパースター（プロレスラー）でもある。最近ほとんどプロレスラーとしての活動はしていない様子。WWEを辞めて、WCW（ワールド・チャンピオンシップ・レスリング/WWEに吸収された団体）へ移籍。そしてTNA（トータル・ノンストップ・アクション/現、インパクト・レスリング）という団体を作り、GFW（グローバル・フォース・レスリング）という団体も作った。その後、彼は行方不明になったが、WWEの殿堂式典にビル・ゴールドバーグなどと共に殿堂入りして、WWEで数試合の前座試合を戦った。元々、昔の選手がフォーク（アコースティック）ギターを、相手の頭に殴りつけるというムーブはあったが、それはギターが貫通するものではなかった。ジャレットのギター攻撃は、ギターが完全に破裂するものだった。今はWWEでイライアスがギター攻撃をすると、ギターが破裂するようになり受け継がれている。ジャレットの残りの人生のプロレスとの関わりに注目だ。

・クリス・ジェリコ

あまりにも有名なスーパースターである。元々はWWEで活躍していたが、最近AEW（オール・エリート・レスリング）や、新日本プロレスで活動している。最近活動しているかわからないが、パンクバンドFOZZY（フォジー）のボーカリストとしても活躍している。そのFOZZYにも最近動きがない印象を受ける。私は詳しくないのだが、「フォロワー数が凄い」ということを聞くが、それだけ有名で人気ということだろう。AEWでは“ハングマン”アダム・ページとの乱闘シーンを見た。新日本では、内藤哲也との抗争を終え、オカダ・カズチカと対決して負けたが、棚橋弘至と因縁が深まり、オカダにも「またやってやる」など、神出鬼没である。

・AJスタイルズ

今は、WWEで、セス・ロリンズやローマン・レインズ、などと共に人気が高いスーパースターである。ヒール軍団、OCのボスとして、ルーク・ギャローズ&カール・アンダーソンと、元、新日本プロレスのバレットクラブのコンビ3人で好き放題やっている。AJがピンチとなれば他の2人が乱入をして、チームワークは抜群である。最高位王座はWWE王座を2回獲ったが、まだWWEユニバーサル王座を獲っていないので、これは、今の人気からすれば時間の問題だろう。今、“ロウ”では、ロリンズやブロック・レスナー、ブラウン・ストローマンというライバルがいるので、簡単には王座は獲れないかもしれない。(終)



2020年4月3日（金）

クリス・ジェリコは、「カナダの X JAPAN 大使」を自称している。

私は、CD ショップに出かけて、プロレスラー、クリス・ジェリコ（別名：ムーングース・マックイーン）がボーカルのヘビメタルバンド、FOZZY の「ジュダス（Judas）」というアルバムを買いに行った。探したところ見つからなくて、女性店員さんに聞いてみたところ、「今はないですが、取り寄せることはできます」と言ってくれたのだが、私は、電車で買いにきた。また来るのは嫌だったので「あっ、予約しなくて結構です、すみません」と言ってその場をあとにした。しかし、予約すれば FOZZY のアルバムは手にいられることを知ったので、「家の近くの CD ショップで予約すればいいや」と思った。「Judas」はウィキペディアによると、ジェリコが 2018 年以降、自分のプロレスの入場曲のテーマで使っている曲のようだ。ここ数年、フィニッシュ技でジュダス・エフェクト（ローリング・バックエルボー）という技を使っている。

その後、そのまま帰らず、もう 1 つの候補、X JAPAN の「WE ARE X ORIGINAL MOTION PICTURE SOUND TRACK」というアルバムを買った。ちなみにジェリコは、ウィキペディアによると、「カナダの X JAPAN 大使」を自称しているようだ。

『YOSHITATSU BY YOSHITATSU 「WORLD FAMOUS」と呼ばれた男』（ヨシタツ／徳間書店）によると、日本人プロレスラーのヨシタツも「X JAPAN は詳しくて、好きだ」とあった。

早速、帰ってから、X JAPAN を全部聴くつもりだったが、スタミナが及ばず、早送りした曲もあったが、ほとんど聴いた。紅、Forever Love、Dahlia、Crucify My Love、Tears、Endless Rain、X、Rusty Nail と、7 曲は知っていた。ボーカルなしの曲もあったから、半分以上は知っていた。

中学生の頃、X JAPAN のアルバムを 1 枚持っていて、何度も聴いたことはある。Yoshiki さん、Toshi さん、Hide さんは知っていた。X JAPAN のメンバーはレベルが凄く高いと思うが、特に Yoshiki さんの、ピアノの旋律が繊細で好きだ。紅白歌合戦で、Yoshiki さんは海外の顔にペイントを塗った 4 人組バンドの KISS と、ドラムを叩いて共演して「KISS のようにステージで、大声で叫んでもいいのだ、ということを昔、感じた」と話していた。

私が今回、X JAPAN のアルバムを買ったのは、完全にジェリコの影響を受けている。X JAPAN の CD は手に入れたから満足。あとはジェリコのバンド FOZZY のアルバムは、日本の CD ショップにはいつも置いていないから、取り寄せの予約をしたいと思う。

自称「カナダの X JAPAN 大使」ジェリコは、私に X JAPAN の CD を買わせた！（終）

2020年4月30日（木）

FOZZY — BON JOVI。(クリス・ジェリコ — ジョン・ボン・ジョヴィ)。

『みんなのプロレス』（斎藤文彦／ミシマ社）。

・(クリス・ジェリコは) バックステージですれ違うたびにリック・フレアーに「やあ、ボン・ジョヴィくん」とからかわれる。(中略) ジェリコもボン・ジョヴィは嫌いではないけれど、あこがれる対象の世代のロッカーというわけではない。(以上、引用)。

BON JOVI (ボン・ジョヴィ) は、ジョン・ボン・ジョヴィがボーカルのロックバンドである。

FOZZY は、プロレスラーのジェリコの別名、ムーンゲース・マックイーンがボーカルのメタルバンドである。

(注：私は音楽に詳しくないので、BON JOVI や FOZZY が、正式にロックなのか？ メタルなのか？ バラードも歌うのか？ などにはよくわからない)。

BON JOVI のボーカル、ジョン・ボン・ジョヴィは今、59 歳。

FOZZY のボーカル、ジェリコ (と書かせてもらう) は今、49 歳。

10 歳も歳は離れているが、前述した通り、ジェリコにとって BON JOVI は、あこがれる対象の世代のロッカーではないらしい。

「ビルボード洋楽 TOP40」の音楽番組の、エンディングテーマ曲を BON JOVI が歌っていたが、やはり、フレアーが言うように、ボーカルを担当する、ジョン・ボン・ジョヴィとクリス・ジェリコの顔は似ている。更に、BON JOVI が現在 5 人組 (旧メンバー 3 人、入れ替わり) なのに対して、FOZZY も 5 人組のバンドだ。

しかし、知名度的には、FOZZY もクリス・ジェリコを初め人気はあるだろうが、BON JOVI の人気には及ばないのではないかと？ 日本でも CD ショップの外国人ミュージシャンのコーナーに BON JOVI はあるが、FOZZY はいまだかつて置いてあるのを見たことはない。音楽チャートでも、BON JOVI は見るが、FOZZY は見たことはない。だから、FOZZY の曲を聴きたい場合は CD 屋で取り寄せるか、ユーチューブなどで聴くしかないだろう。だが、私はロックバンドとしては、BON JOVI が一番正統にかっこいい気がするが、FOZZY も似ていてかっこいい。勝敗はともかく、いつか FOZZY の CD を輸入盤で買いたい。(終)

2020年6月1日（月）

クリス・ジェリコ — “アイアン” マイク・タイソンと大乱闘！ 大運動会状態！

AEW マットで、クリス・ジェリコ（49歳）と“アイアン” マイク・タイソン（53歳）が大乱闘を起こした。ジェリコ陣営とタイソンの取り巻きが乱闘を始めたかと思うと、一斉にAEWのレスラー達が大勢現れて、ジェリコとタイソンを引き離し大運動会状態と化した。

私は、WWE時代にタイソンが、“ストーンコールド” スティーブ・オースチンと対立し、ショーン・マイケルズ&トリプル H 達のユニット、D-ジェネレーション X に加わったと見せて裏切り、ショーン・マイケルズを殴って、オースチンとタイソンは繋がっていたというストーリーは知っていた。DX への裏切りであった。

しかし、ジェリコが今回、「10年前、俺を殴ったことを謝れ！」とタイソンに言ったのは、これも WWE で、ジェリコがタイソンと組み、DX のマイケルズ&トリプル H と対戦した際、タイソンが DX と合体して、ジェリコを裏切り殴ったといういきさつがあったようだ。

タイソンといえば、誰もが知る元プロボクサーで、現在 53 歳にしてボクシングに現役復帰を考えているという報道が流れていた。

『真相』（マイク・タイソン／ダイヤモンド社）によると、今はわからないが、昔からかなりの悪ガキだったようだ。プライベートの為、ここにはあまり書かないが、現役の頃は“悪童”とかそういうニックネームまでつけられていた。試合中の“耳噛み事件”というのもあった。それでもボクシング世界ヘビー級の最年少王者になり、元 WBA・WBC・IBF 世界ヘビー級統一王者になった。

タイソンはプロレス団体、WWE や AEW に登場しているが、昔から結構プロレスファンだったらしい。本の中ではボクシングの世界でもヒール（悪玉）に憧れたという。タイソンの生き方というのもヒールだったので、プロレスのようなヒール役という形だけのものではなく、タイソン自身が自然とヒールの間人だというのがかっこいい。

今回のジェリコ — タイソンの大乱闘では、ジェリコに「10年前のことを謝れ！」と言われ、タイソンは T-シャツを破り捨てて、53 歳とは思えない筋肉を披露する。そして、ジェリコの胸を突き飛ばすと、ジェリコもタイソンの胸を突き飛ばし大乱闘に発展した。ジェリコというのも面白いが、タイソンというキャラが更に面白さを増した。

ジェリコ — タイソンの一騎打ちになるのか？ 今後の展開に大期待である！ （終）

2020年6月29日（月）

クリス・ジェリコの、AEW、ヒール（悪玉）ユニット「インナーサークル」について。

AEWで、クリス・ジェリコが「インナーサークル」というヒール（悪玉）ユニットを作った。

リーダーはジェリコで、サンタナ&オルティズズのタッグチームの2人、ジェイク・ヘイガー、サミー・ゲバラの合計5人組のユニットだ。

ジェリコは昔、日本で冬木弘道の元で、ライオン道という名前で活動したが、その後はWCWや、WWEでもユニットに所属したことはないかもしれない。音楽のFOZZYとしてはボーカルのリーダーとして活動したことはある。だから、ジェリコとしては、ユニットにリーダーだけが参加しているというのは珍しい形だろう。

私が、インナーサークルの活動を意識したのは、AEW世界王者のジェリコが、ジョン・モクスリーにベルトを奪われたあと、翌週、翌々週とこの5人組がエントランスから、モクスリーにテーブル貫通の合体パワーボムを浴びせて、そして、5人が揃ってカメラに向かい中指を立てるというポーズをしながらだ。

その後は、THE ELITEのケニー・オメガ、ハングマン“アダム”・ページ、ヤングバックス（マット・ジャクソン&ニック・ジャクソン）、あとは、マット・ハーディーの5人と抗争になり、なんとアメリカンフットボールの競技場でインナーサークルとTHE ELITE達が、5対5で戦った。最後はとてつもなく高いところから、オメガがゲバラを片翼の天使を浴びせ3カウント勝利。この抗争はこれで終わった。

そして、次はプロボクサー、マイク・タイソンとの抗争だ。リング上でインナーサークルの5人が話していると、タイソンが登場した。ジェリコは10年前タイソンにWWEマットで裏切られ殴られているので、ジェリコはタイソンに「あの時のことを謝れ！」というが、タイソンはジェリコの胸を押すと、ジェリコもタイソンの胸を押して大乱闘状態に発展した。これは今後も抗争は続くのか、終わったのかはわからないが、もし戦うのならば、タイソンの取り巻きと、ジェリコのインナーサークルのセコンドが入り乱れる試合になるだろう。

最近、ジェリコやインナーサークルの間に、オレンジ・キャシディが何故か顔を出すようになった。タイソンはしょっちゅう来られないから、キャシディが繋ぎ役で来ているとも考えられるが、先日は、リングにいるジェリコを挑発すると、リングにいたヘイガーがクローズライン（ラリアット）をするがキャシディは交わして場外へ逃げた。

しかし、次の週ではインナーサークルの面々にキャシディは捕まってしまう、ジェリコに名前の通り、オレンジの固まりで殴られて、搾りかすをかけられた。だが、翌週はジェリコとキャシディがリングや場外で1対1の乱闘になり、キャシディは右耳から出血をしながらも場外でジェリコをKOした。今度2人は戦うが、インナーサークルの影は恐ろしい。（終）

2020年1月24日（金）

2020年1月5日の、スーパースター対決。クリス・ジェリコ — 棚橋弘至。

新日本プロレス、2020年1月5日、東京ドーム大会。○クリス・ジェリコ — ●棚橋弘至 22分24秒 ウォールズ・オブ・ジェリコ の試合を書いておきたい。

ここまで、最近の新日本プロレスでのジェリコの成績は。

- ジェリコ — ○ケニー・オメガ
- — ●内藤哲也（IWGP インターコンチネンタル王座、獲得。）
- — ●EVIL
- — ○内藤哲也
- — ○オカダ・カズチカ
- — ●棚橋弘至

で新日本では、3勝3敗になった。

（ジェリコ — 棚橋戦）

スーパースター対決。カリスマ — エース。ペインメーカー — エース。

ジェリコには、350万人のツイッターがついている。

最後は、ジェリコがウォールズ・オブ・ジェリコで勝った試合だが、何故、棚橋のほうも隠れ必殺技のテキサスクローバーホールドを、使わなかったのだろうかと思った。

棚橋コールに対し、ジェリコは両手で中指を立てるポーズ。

ジェリコはずっと前からだが、体型が太った感じがする。昔の WWE 時代は細かったけど。

棚橋とジェリコのチェンレスリングはたまらない。

棚橋、エアギター。

棚橋、ジェリコの「カモンベイビー」のポーズでのフォールをする。やはり、それだけでも、どこかに棚橋が挑発というよりも、尊敬（リスペクト）の気持ちが強いのか？

ジェリコは場外から改めてリングに戻ると、「カモンベイビー」を自分でちゃんとやった。

海外実況席でジェリコは、棚橋に机上の DDT。机は割れなかった。それにしてもジェリコはいつも、日本ではなく海外実況席を使う。

中盤は激しい攻防になる。

終盤は、棚橋がスリングブレードを狙うが、交わされジェリコもウォールズ・オブ・ジェリコを狙う。しかし、棚橋が首固め。棚橋はツイスト・アンド・シャウト～スリングブレードに行く。そして、ハイフライフローを狙うが、ジェリコが丸め込みながらウォールズ・オブ・ジェリコ。ジェリコは口の中の歯に、血を流しながらウォールする。

更に大変な角度でウォール（壁）して、棚橋がタップアウト。ジェリコが勝利。

（感想）改めて見たが、やはり、ジェリコの試合は面白い。ジェリコを愛してまーす。（終）

2020年3月22日（日）

新日本プロレスは、クリス・ジェリコをちゃんと1回、IWGPヘビー級王者にすべき！

かつてのIWGPヘビー級王者、外国人プロレスラーを並べてみよう。(複数回、戴冠あり)

(旧王座、ハルク・ホーガン)、ビッグバン・ベイダー、サルマン・ハシミコフ、スコット・ノートン、ボブ・サップ、ブロック・レスナー、AJスタイルズ、ケニー・オメガ、ジェイ・ホワイト。以上9名。(カート・アングルは除く)。

私が、この中で納得がいくのは、ホーガン、ベイダー、ノートン、AJの4人だけだ。

ハシミコフのことはよく知らないというのが理由だ。サップはそんなにレスリングが巧かったわけではない。レスナーはきちんとベルトを新日本プロレスで返さなかった。オメガとホワイトは、当時はそれだけの器を感じなかった。(今は特にオメガは認めている)。

クリス・ジェリコは、元、WWEの初代WWE&WCW統一王者であり、WWE・インターコンチネンタル王座(IC王座)を現時点で9回も獲得した、本物のスーパースターである。

新日本はジェリコをIWGPインターコンチネンタル王者にはしたが、オカダ・カズチカの壁は厚く、まだIWGPヘビー級王者にはなっていない。

最近、奪われたが、ジェリコは、AEW世界王座の初代王者でもある。

インターネットのツイッターのフォロワー数が凄いと、そういうことはどうでもよい。

内藤哲也が「クリス・ジェリコって、もうピークをすぎたレスラーでしょ」と言っていたが、AEW世界王者を防衛し続けた背景を考えると、その心配はいらない。確かに、新日本では長期政権にはならないかもしれないが、この偉大なジェリコを、IWGPヘビー級王者の欄に並べないのは残念な気がする。

新型コロナウイルスの影響で、おそらく新日本は今、興行ができない状態。内藤も2冠王(IWGPヘビー&IWGPインターコンチネンタル)を獲った割に、その2本のベルトを巧く使えていない。海外の2冠王といえばジェリコだから、内藤が2冠をかけるのか？ IWGPヘビー級王座だけをかけるのか？ でもいいから、内藤 — ジェリコのタイトルマッチが実現したら面白い。

今、ジェリコはAEW世界王座も取られて丸腰だから、ちょうど新日本に上がっていくにはタイミングがいいだろう。

私が、ジェリコのファンだから、IWGPヘビー級王座にジェリコの名前を加えることで箔をつけたいというのはあるが、ジェリコを絶対IWGPヘビー級王者にすべきだ！ (終)

2020年6月22日（月）

クリス・ジェリコは、日本のプロレスの「プロレス最強説」には否定的。

ウィキペディア（検索、クリス・ジェリコ）

日本でのプロレス戦歴が長く、親日派でもあるが日本のプロレスに根ざしている「プロレス最強説」に基づいた傾向に対しては否定的である。雑誌のインタビューで「プロレスはエンターテインメントなのに、シュートやMMA（ミックスド・マーシャル・アーツ／総合格闘技）と結びつけてしまった」ことが昨今の日本におけるプロレスの衰退の主な原因であると述べている。（以上、引用）。

ここで大事なことは、ジェリコが「プロレスはエンターテインメントなのに」という立場になって話していることだ。この場合のエンターテインメントは「純プロレスで、ファンを楽しませるもの」という感じを受ける。

「シュート（真剣勝負）」に関しては、仕掛けたりすることを指しているのだろう。それはまさにアントニオ猪木が仕掛けたものなどを指しているのかもしれない。

「MMA と結びつけてしまった」、ジェリコの WWE 時代は、ブロック・レスナーが、WWE を退団して、UFC（アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ／MMA 団体）に挑戦して、UFC ヘビー級チャンピオンになった。デイヴ・バティスタや、ボビー・ラシュリーといった選手も、MMA に挑戦していった。最近では、AEW でジェリコと同じインナーサークルというユニットの仲間の、ジェイク・ヘイガーが MMA に挑戦して肩固めで勝利した。

つまり、ザ・ロック（現、ドゥエイン・ジョンソン）が映画に出て行くとか、ジェリコ自身が FOZZY の音楽活動をするのはジェリコの中では OK なのだろう。

新日本プロレスのリングでは、アルティメット・クラッシュという MMA の戦いをおこなうとか、柴田勝頼がキックボクシングのルールで戦うというところに、ジェリコの疑問点はあるのだろう。

ジェリコが WWE で、ケン・シャムロックと同じ時期があったかはわからないが、WWE マットでは、とにかく広い意味で純プロレスをやった。ボクシングの、マイク・タイソンや、フロイド・“マネー”メイウェザー・ジュニアや、最近ではボクシングのタイソン・フーリー、UFC のケイン・ヴェラスケスも、WWE のビンス・マクマホン会長が巧く戦わせた。

おそらく、今度の AEW でも、ジェリコ — タイソンは、猪木 — アリ状態になったりするかわからないが、シュートでは戦わないはずだ。あくまでエンターテインメントとしての試合に徹するはずである。でも私は、新日本は格闘技と対戦したほうが刺激はある。（終）

2020年1月29日（水）

AJ スタイルズを愛している。

私は男だが、変な意味ではなく、AJ スタイルズを愛している。

以前は、クリス・ジェリコに中毒だ。と書いたが、それも今は変わらない。

そして、一応、一番は、もう裏方に回っているが、ジェフ・ジャレットも愛している。

AJ は、現在、WWE 所属だが、ほぼ欠場することはない。AJ が画面に出てくると興奮する。私が1982年生まれの37歳だから、AJ は1977年生まれの42歳ということになる。やはり、顔がかっこいいというのもあるが、それよりもかわいい。ジェリコも、現在、AEW 所属だが、そういうタイプだ、かわいい。

そして、AJ にはアイコンがある。アイコンは正確には「象徴」という意味だが、カリスマ性という言い方に近いのかもしれない。私は、こういうレスラーを「アイコンポイントが高い」と呼ぶこともある。

AJ を知ったのは、AJ がまだTNA で、若手として活躍していた頃で、髪の毛も短く立っていた。その頃から、「AJ という凄い奴がいる！」という程度には、知っていた。しばらくすると、AJ は新日本プロレスに移籍した。私は生で、G1 CLIMAX の決勝が西武ドームで行われた日、そのセミファイナルだったか、AJ - 棚橋弘至の試合を見たが、棚橋が丸め込みで勝った。その時は、負けたAJ が棚橋を襲撃していると、ジャレット、当時、GFW の代表が現れて、ギターを持って棚橋の救出をするかと思ったら、AJ ではなく、棚橋にギターショットを浴びせて、AJ とジャレットはBULLET CLUB で繋がっていたということもあった。

新日本では、テレビで見えていたら、BULLET CLUB でカール・アンダーソン&ドグ・ギャローズ（現、WWE 名、ルーク・ギャローズ）と組んでいたが、試合中にマリア（現、WWE 名、マリア・ケネリス）という赤毛のセコンドの女性が、お色気作戦を使うと、アンダーソンが乗せられた。アンダーソンがAJ に「よく見ろ」とやると、AJ も髪型を整えながら乗せられた。最後にギャローズが2人をしっかりさせる為に、マリアをエプロンから下に追い出した。これを見た時、AJ もこういうお笑いの万能性もあるのだと思って好きになった。

そして、今のユニット、OC に当たる（AJ&アンダーソン&ギャローズ）は、WWE に移籍した。そして、AJ は、WWE 最高位王座の、WWE 王座を2回獲得して、レッスルマニア34では、WWE 王座を中邑真輔から防衛した。

AJ への愛は止まらない。改めて、やはり、かわいい。42歳だけどかわいい（笑）。誰だか、ランディ・オートン辺りが、「おばさんヘア」と言ったようだが、許せん（笑）。（終）



2019年9月9日（月）

WWE の、AJ スタイルズ率いる、OC（ユニット）はカッコいい。

WWE の新しいヒールユニット、OC が好き勝手暴れている。

OC とは、オフィシャル。オリジナル。オンリー。の頭文字の O を意味するらしい。

C はクラブである。

メンバーは、ボスが AJ スタイルズで、カール・アンダーソンとルーク・ギャローズの 3 人組ユニット。

元々、新日本プロレスの BULLET CLUB で組んでいた 3 人だが、3 人揃って WWE に移籍して、AJ はベビーフェースのシングルプレイヤー、残りの 2 人はタッグチームとして、バラバラに活動していた。しかし、以前から特番などで一緒になると仲が良いところを見せていたが、ずっとバラバラだった。

しかし、今年、アンダーソン&ギャローズが AJ に、「リコシェがお前なんか、簡単に倒せると言っていたぞ！」と嘘をつき、その挑発をまともに受けてしまった AJ が、リコシェと一触即発になるなど、AJ はコントロールされる形で、アッという間にヒールの人間になってしまった。

そして、仮の名前でザ・クラブと呼ばれていたのを、正式に OC として活動を開始することになった。

AJ はリコシェに勝ち WWE・ユナイテッドステイツ王座（US 王座）を獲得した。最近も AJ は US 王座を懸けても、AJ がピンチとなれば OC が乱入して、ノーコンテスト裁定の防衛のような形で、王座を守り続けている。

一方のアンダーソン&ギャローズも、OC が出来てすぐ、WWE・ロウ・タッグチーム王座を獲得した。だが、最近、セス・ロリンズ&ブラウン・ストローマン組に、AJ の乱入も読まれて、結局、すぐにロウ・タッグ王座を奪われてしまった。

私の OC の魅力はなんといっても AJ の存在だろう。AJ はベビーフェースも似合うが、ヒールも本当によく似合う。あとは、アンダーソンの存在も。彼が、精神的支柱でこのユニットのバランスを保っている、レスリングセンスもある。で、私はギャローズをそこまで評価していないが、大きさという面では、こういうスーパースターがいたほうが、ユニットが強く見えるというのもあるだろう。だから、OC は非常にバランスの取れたユニットなのだ。

OC の次なるターゲットは何になるかわからないが、US 王座も獲った。タッグ王座も獲った。となると、次は AJ の WWE ユニバーサル王座の獲得に向けて、3 人が一致団結することだろうが、今は、もうエース的なベビーフェースの王者となっているロリンズから、3 人がかりでもベルトを取るの難しいかもしれない。

更に OC は無差別に襲撃するという悪行も繰り返すだろう。私は、このやりたい放題のヒールユニット OC が今は好きでたまらない。なんといっても、カッコいいから。（終）

2. WWE の、男女スーパースターズ (プロレスラー)。

2019年8月6日（火） WWE・男子

「フレッド・ブラッシー自伝」についての考察。「この変態野郎ども！」

最近の WWE のオープニングでは、“過去”、“今”、“永遠”というテロップと共に、WWE の過去のスーパースターズの映像が流れるが、まず、ハルク・ホーガンがアンドレ・ザ・ジャイアントをボディスラムで叩きつけるシーンから始まる。

そして、次の画面の3分割された中央で、“過去”という表示と共に、紫色の半袖で、銀髪で、手を広げている、フレッド・ブラッシーの姿が中央に現れる。この扱いだけでも、どれだけブラッシーが WWE で重要な人物だったのか分かる。

恐らく、ジェス・マクマホン（今のビンスの祖父）、ビンス・マクマホン・シニア（今のビンスの父）、そして、ビンス・マクマホン・ジュニア（今のビンス）、更には、シェーン・マクマホン（今のビンスの息子）、ステファニー・マクマホン（今のビンスの娘）のビンスの家系の人から、とても愛されたのだろう。特にシニアと、今のビンスには。

そして、この1冊を読んで、ブラッシーはとてとても皆から、愛された人物だと感じた。

私はこれを当時、映像で見たが、

WWE（ビンス派）対 WCW&ECW、アライアンス（シェーン&ステファニー派）の全面戦争を前にした時のシーンだ。

『フレッド・ブラッシー自伝』（フレッド・ブラッシー／エンターブレイン）

・ビンスとアンダーテイカーは団体のスーパースターを集め、“ロウ”で激励会を行った。突然、部屋のドアが開くとそこには車イスに乗り、紫のジャケットを着てステッキを持った私（ブラッシー）が現れたのだ。静かに車イスから立ち上がった。「立ち上がれ！ 立ち上がって、闘うんだ！」

最後には拳を突き上げて「戦え！」とさらに大きく吠えた。

その後、「アングル（シナリオ）で、シェーンとステファニーに罵られた」と書いてある。

ブラッシーは「この2人を生まれた時から知っていたから、ショックを受けた」とある。

「だが、すぐにショーの一部だと気づき、逆に協力できて、嬉しい気持ちになった」そうだ。（以上、部分的に引用）。私はブラッシーでは、このシーンが一番印象に残っている。

特に若い頃は、大ヒールで日本では、噛みつき攻撃で、それを見た視聴者が心臓発作で苦しみ死者が出たという、恐ろしい逸話がある。21度刺され、硫酸をかけられたこともあり、卵を投げつけられて目に当たり、それ以来、片目があまり見えなくなってしまった。とにかく物凄いマシンガンのような口撃をするので、ファンに嫌われて、大ヒールだった。しかし、40代を過ぎたくらいから、現在でもよくあるように、ヒールのブラッシーに歓声が起きるようになった。3人目の最後の妻で、日本人のミヤコ夫人と結ばれた。最後はブラッシーの言葉で締めよう、言いたいことはそれだけだ、「この変態野郎ども！」。（終）

2020年6月27日（土） WWE・男子

ジ・アンダーテイカーの現役引退について。デッドマンはかっこ良かった！

WWEのジ・アンダーテイカー（本名、マーク・ウィリアム・キャラウェイ）が、現役を引退すると発表した。55歳での引退となった。私はこの情報は、“スマックダウン”で放送された番組を見ていたら、やたらとアンダーテイカーの映像が流れていた。事実上の引退試合となった、“レッスルマニア 36”のAJスタイルズとの墓場マッチも振り返って放送されていた。WWEのトップクラスのレスラー達がパフォーマンスセンターの会場のエントランス付近に並び、「アンダーテイカー！ アンダーテイカー！」と拍手をして栄光を称えていた。この日の“スマックダウン”の最後の試合は、ジェフ・ハーディー — バロン・コービンだったが、アンダーテイカーにかつて認められた男のジェフがコービンを破って、アンダーテイカーの画像がオーロラビジョンに映ってエンディングとなった。アンダーテイカーは自分のドキュメンタリー動画で、この日の“スマックダウン”より以前に「もう戦う意欲はない」と発言していたらしい。

突然のことで、私もアンダーテイカーについては、何を思い出すか考えてみる。アンダーテイカーは1990年頃、プロレス界にデビューしている。私は2000年からWWEを見ているので、2020年までの、30年間のうちの20年間の現役時代なら知っている。

アンダーテイカーはこうして、例えば、ウィキペディアで、「ジ・アンダーテイカー」を調べてしまうと、思い出がありすぎてどれを選んでいいかがわからない。意外と言っては失礼だが、“レッスルマニア 36”での墓場マッチ、アンダーテイカー — AJスタイルズの引退試合が意外に一番良かったという見方もできる。他には、“レッスルマニア 25&26”でのアンダーテイカー — ショーン・マイケルズの2連戦。続けて、“レッスルマニア 27&28”でのアンダーテイカー — トリプルHとの2連戦もストーリー的にWWEは非常に巧い演出をした。私的には“レッスルマニア 17”の、アンダーテイカー — トリプルHも懐かしい。“レッスルマニア 30”でアンダーテイカーはブロック・レスナーに敗れて、レッスルマニアでの無敗記録が途絶えたのは、私は少しショックだった。更に“レッスルマニア 33”でもローマン・レインズに敗れたが、これはそこまでの傷にはならなかった。

昔、アンダーテイカーが子供の頃に火をまいて、火傷して仮面を被っていたのが弟のケインというキャラクターで、2人は“破壊兄弟”と呼ばれた。2人が揃ってチョークスラムを放つと、当時のWWEの実況のジム・ロス（JR）と、解説のジェリー“ザ・キング”ローラーは「ダブルチョークスラム！」「ステレオチョークスラム！」と言っていたのが印象的だ。

私は、怪奇派とアメリカンバッドアスのバイカーでは、バイカーのアンダーテイカーのほうが、かっこよくて好きだった。でも、怪奇派のアンダーテイカーの眼力の恐ろしい睨みつけ方は、相手を戦う前から恐怖に陥れた。あとは、スティング戦を見たかった。アンダーテイカーの試合を見られないのは残念だが、「ありがとう、お疲れ様です」と言いたい。（終）

2020年6月17日（水） WWE・男子

トリプルHは、勝たれたままでは終わらない。必ず1回は“復讐”する。

トリプルH（ハンター・ハースト・ヘルムスリー）のキャリアを振り返ると、“復讐”の連続だったように思う。決して、どんな長い年月が経とうとも、連敗しようとも、最後には必ず1回勝って、負けた過去を引きずりながら、プロレスラー人生を終わるという気がない。プライドの高いスーパースターだと思う。

しかし、例外な相手もいる。ジ・アンダーテイカーである。2001年“レッスルマニア17”では、トリプルHはアンダーテイカーに敗退。2011年“レッスルマニア27”では、アンダーテイカーのヘルズゲートにギブアップして敗退。2012年“レッスルマニア28”でのリターンマッチでも、アンダーテイカーのツームストーン・パイルドライバーで敗退した。トリプルHはアンダーテイカーだけには、私が知る限り“レッスルマニア”では0勝3敗で勝てていない。しかし、アンダーテイカーも歳を取ってきていることは自分で認めているから、トリプルHは名の通りハンターのように、今後、手負いになったアンダーテイカーに挑戦して、勝ちにいくかもしれない。それかトリプルHはアンダーテイカーに敬意を表して戦わないかもしれない。（前述したが、その後、アンダーテイカーは現役を引退した）。

トリプルHは、例えば、UFCから帰ってきたブロック・レスナーに特番“サマースラム”で、キムラロックで敗戦するが、“レッスルマニア29”でトリプルHが執念の勝利。復讐した。

他にも、同じエボリューションというユニットで組んでいたデイヴ・バティスタに特番で3連敗するが、それからもう何十年もしてから、リック・フレアー70歳の記念パーティーにヒール（悪玉）役で現れたバティスタに、遂に勝利して、ここでも勝ち、チャラにする。

2001年の“ストーンコールド”スティーブ・オースチンとの、スリー・ステージ・オブ・ヘル戦では、トリプルHはライバルのオースチンから勝利を奪った。

その後も、トリプルHは、口が達者で面倒な相手でもあったCMパンクから、負けたことはないが、体格差、実力の差をみせつけて、黙らせた。

スティングの“特番”での引退試合の相手となり、ハンマーでスティングも下した。

トリプルHは、とにかく相手に勝たれたままでは、気が済まない性格なのだろう。（終）

2019年9月25日（水） WWE・男子

中邑真輔とは、まさにジャパニーズ・エンターテイナーである。

昔、新日本プロレスで大活躍して、今は、WWEで活躍し頑張っている中邑真輔。

私は、新日本プロレスにいた時は、特にそんなに好きでも嫌いでもなかった。

2005年以降くらい～2010年くらいまでは、私も個人的に忙しかったので、中邑の日本での活躍をそれ程見ていなかったのもある。

でも、中邑がWWEに行って、私もパソコンを持っていて、ユーチューブの“NXT”の中邑 — サミ・ゼインの対決は、中邑がアクシデントで鼻血を出したのだろうが、あの少し本気の戦いは良かった。もちろん、新日本時代の桜庭和志戦や、飯伏幸太戦も興奮したが。

だから、中邑も自伝などで言うように、試合で魅せるという部分では、私は中邑の試合を見るのが好きなのだ。戻るが、特にWWEに行ってから、TOPで活躍している日本人のヘビー級の男子プロレスラーは中邑しかいない。よって、中邑の勝った、負けた、試合内容、ベルトを獲った、タイトルを獲った……などを追いかけていることが楽しい。

中邑は、最近はおさなくなったが、WWEデビューから1年後くらいまでは、よく本を出してくれていた。「USA DAYS」、「陽が昇る場所へ」、「中邑真輔自伝 KING OF STRONG STYLE 上・下」、「2011年の棚橋弘至と中邑真輔」など、中邑の関連本を5冊程出してくれたので、私も反復して、何度も読んでいます。

最近、読んでみると、昔は文面を読んでいただけで、本の内容は理解できていなかったと思うが、最近はお内容がわかるようになった。そうして、読んでみると、中邑は頭がいいのだな、と感じることがある。すぐに聞き手の質問に答えられるように、考えている能力もあるのだな、と感じる。

私がやはり中邑で一番興奮したのは、今年の6月末の日本公演2日あるうちの初日を観に行ったことだ。きつねうどんの宣伝に中邑が登場して会場の笑いを取った後、WWEユニバーサル選手権。(王者)セス・ロリンズ — (挑戦者)中邑真輔、が実現した。さすがに日本公演では、ベルトを奪えなかった。アメリカでは、正直に私は、中邑の人気は今もあるのかはわからないのだが、日本に帰ってくれば間違いなく声援は凄いと思った。

中邑はWWEで現役を終えるのか？ それとも日本に戻って、新日本プロレスで現役を終えるのか？ 野球のイチローさんや松井秀喜さんのように、現役を終えても海外を居場所にするかもしれないし、WWEのFUNAKIなどはそうしていると思う。

私は、本だとかプライベートの中邑より、試合に出てきて、勝ったとか、タイトルを獲ったとかいう中邑を追いかけることが楽しい。今後もたくさん楽しませて欲しい。(終)

2019年10月9日（水） WWE・男子

“ストーンコールド” スティーブ・オースチンとは何か？

以前の“ロウ” リユニオン、にはたくさんの WWE のレジェンドが登場した。レジェンドはエントランスに立ち並んでいた。すると、リック・フレアーが現れた、続いてハルク・ホーガンが現れた、2人はエントランスのちょっと前側に並んだ。

すると、「ガシャーン！」という音と共に、“ストーンコールド” スティーブ・オースチンが入場ゲートから歩いてきた。リングの4つ角でファンに両腕を上げて盛り上げた。ファンと「ヘル・ヤー！」を3回叫んだ。

エントランスのレジェンドはたくさんいたが、トリプル H、ショーン・マイケルズ、ケビン・ナッシュ、スコット・ホール、エリック・ビショフ、ロン・シモンズ、ブギーマン、トリー・ウィルソン、ザ・ハリケーン、クリスチャン、RVD……など、大勢いた。

そういえば、この日は、ストーンコールド・スタナーは出さなかった。最後はエントランスにいたレジェンド達が全員リングに上がり、ストーンコールド流のビールで乾杯をして、幸せの中エンディングを迎えた。

先日の“ロウ” MSG（マディソン・スクウェア・ガーデン）の興行にも、オースチンは登場した。オースチンはあまり老けたとか、太ったというイメージがない。この日は WWE 特番“クラッシュ・オブ・チャンピオンズ”の WWE ユニバーサル選手権。（王者）セス・ロリンズ — （挑戦者）ブラウン・ストローマンの調印式を成立させる為に、オースチンがやってきた。というシナリオだった。

1週間前は、ユニット、OC（AJ スタイルズ、カール・アンダーソン、ルーク・ギャロズ）が現れて、AJ が調印式の紙を破り捨ててしまった。今回もオースチンが立ち合いの中、ロリンズとストローマンが調印式に向かっていると、OC のメンバーが現れた。AJ はオースチンのことを「この老いぼれ！」と言い、挑発し、場内も大ブーイングに包まれるが、オースチンがリングの机を、リングの端に動かす行動を静かに行うと、AJ は「何をしているんだ！」と言うが、すると一斉に、ロリンズとストローマンが、OC の面々に襲い掛かった。ロリンズの攻撃を AJ が交わして場外に投げとばし「大したことねえな！」と言うが、AJ が後ろを振り向くと、オースチンがストーンコールド・スタナーを浴びせた。AJ はバネのようにバウンドしながら吹っ飛んでしまった。

その日のエンディングのタッグマッチで、AJ はセドリック・アレクサンダーにフォールを奪われると、またオースチンが登場して、アレクサンダー達とビールで乾杯した。

オースチンとは、かつてのプロレスラーの中で、一番愛されたレスラーかもしれない。（終）

2020年2月14日（金） WWE・男子

ブレイ・ワイアットとは、新種の怪奇派である。

私とブレイ・ワイアットとの出会いは、ワイアットが、ルーク・ハーパー、エリック・ローワン、ブラウン・ストローマンの3人の弟子を従えて4人で行動を共にしていた時期である。ボスのワイアットでさえ190cmあるのに、他の3人は195cm～2mもあり、その3人もそれぞれ『個』の力があり、ワイアットも当然強かった。ワイアットは試合中に、ゆりかごに座って、弟子達の試合を観戦していた。

ある番組では、ショーン・マイケルズが、「ワイアットの（ジ・アンダーテイカーのようなファンのランプの入場に似た）スマートフォンの灯りの入場からして、奴は成功するだろう」と語っていた。

父親はマイク・ロトンドで、弟はボー・ダラス。しかし、ワイアットはダラスに関しては、軍団に入れたりすることもなかった。ダラスは、身長が低かったからかもしれないし、怪奇派が似合わないとして WWE 会社が判断したのかもしれない。

ワイアットは2回、WWE で最高位王座に輝いている。WWE 王座が先で、あとは WWE ユニバーサル王座だ。（その後、もう1回、WWE ユニバーサル王座を獲得した）。

WWE 王座を獲得してからは、ランディ・オートンとの抗争が始まった。オートンがワイアットの館に油を巻いて、火を点けて、燃やすというストーリーがあった。“レッスルマニア 33” で対決して、ワイアットがコーナーで足をケンケンと打つと、ミミズやゴキブリの大群の映像が映し出されるというシーンがあったが、私は「気持ち悪いな！」と思ったが、一応、耐えられた（笑）。しかし、この試合でワイアットは敗れて、WWE 王座を失った。

しばらく、登場しなくなっていたワイアットだが、「たのしいホテルのおうち」の子供向けの番組をスタートするが、次第にそこにフィード（悪霊）ワイアットが関係する。

ワイアットは、ノリに乗っていたセス・ロリンズから WWE ユニバーサル王座を奪うと、“スマックダウン” に移籍。今のところ、ザ・ミズやダニエル・ブライアンといった辺りの最強クラスではない、大関クラスのスーパースターから、立て続けに防衛中である。でも次は、WWE 殿堂者のビル・ゴールドバーグが対戦候補に挙がっている。

ワイアットは、今は WWE ユニバーサル王座のベルトを巻いているが、ベルトがあっても、なくても商品価値が落ちないタイプの怪奇派だ。噂ではワイアットは中邑真輔のファンらしいので、WWE ユニバーサル王座戦で中邑と戦って、中邑に王座を譲って欲しい。（終）



2019年7月8日（月） WWE・女子

とにかく、カイリ・セインが大好き、大ファン！

先月、2019年6月28日（金）のWWE日本公演初日だけを観戦しに行ったが、最高に楽しかった。

ちなみに、私は男だが、1人で観に行った。

プロレス観戦自体が、WWE日本公演か、新日本プロレスくらいしか最近は行かなくなったが、約1～2年ぶりのプロレス観戦だった。

私は、WWE自体が好きなので、外国人スーパースターズだけでも大丈夫だろうと思ったが、見終わってみると、やはり、カイリ・セイン、ASUKA、中邑真輔の3人の日本人選手の試合には、凄く興奮した。

第3試合で、女子タッグ戦で、カブキ・ウォリアーズ（ASUKA&カイリ）のミックス入場テーマ曲が流れ、興奮状態。特に私はカイリの大ファンで、カイリを生観戦したのは生まれて初めてだったので、ドキドキした。

よく、テレビで、音楽のアーティスト（歌手など）や、日本の新日本プロレスなら棚橋弘至の動きに、狂ったように大声を出して、オーバーアクションしている人が映る時があるが、それが理解できた（笑）。

私は小さな声で「カイリ！」と言いながらも、拍手をして繋ぎながら、いよいよカイリが自分の座っている方角にアピールしてくれた時には、カイリは気づいていないと思うが、両手を上げて拍手を送り声援を送った。

初日は、本当に頼れる姉（ねえ）さんパートナー、ASUKAのアシストもあり、カイリの必殺技インセイン・エルボーを見ることが出来た。2日目は行かなかったが、その日の結果では、ASUKAが「ASUKAロックで勝利した」とあり、2日目はカイリのインセイン・エルボーは見られなかった可能性もあるので幸運だ。

というわけで初日、カイリが見事に勝利して、カブキ・ウォリアーズは女子タッグ王者に勝った。カイリは通路の客席にハイタッチしながら引き上げたが、最近、「ドングリ？ みたいな右上・左上へのパフォーマンス」や、「カンガルー？ みたいな右上・左上へのパフォーマンス」をしないな、と思っていた。そしたら、諦めかけた時、去り際にカイリは「カンガルー？ みたいなパフォーマンス」をやってくれたので、カイリは私のほうを見ていなかったけど、私は密かに真似して、「カンガルー？ みたいなパフォーマンス」を右上、左上とやった。

2日目は、ASUKAのロウ女子王座戴冠はならなかったが、2回目の登場で、カブキ・ウォリアーズでカイリと女子タッグ戦に2連勝。中邑の初日はWWEユニバーサル王座戦でセス・ロリンズに敗れたが、2日目は、中邑&トリプルHの夢のタッグが実現して勝利。

プロレスを観に行きたいと思う感覚なんてそうは簡単じゃない。カイリありがとう。（終）

2020年2月24日（月） WWE・女子

ベッキー・リンチ（レベッカ・クイン）とは、オレンジ色の髪の毛の、小柄な女の子。

ベッキー・リンチ、(本名、レベッカ・クイン)、は WWE の女子スーパースター（プロレスラー）である。アイルランド・ダブリン出身で、自分のことを現在は“**I AM THE MAN**（私は男）”と名乗る。身長は156cm、体重は61kgと小柄である。髪の毛はオレンジ色（橙色／だいたいいろ）だ。

2019年の“レスルマニア 35”のメインイベントで、ロウ女子王者の“ラウディ”ロンダ・ラウジーや、スマックダウン女子王者のシャーロット・フレアーと、無冠ながら女子ロイヤルランブルを制したベッキーが、3WAY戦で2冠を懸けて戦った。ここで、ベッキーが勝利して女子最高位王座2冠王となった。そこからは、スマックダウン女子王座はベイリーに奪われたものの、ロウ女子王座に関しては2019年の4月から、2020年の2月（現在）まで、防衛中。

最近のベッキーは、完全に WWE ユニバース（WWE ファン）を味方につけている。私の中で WWE の女子スーパースターで、小柄でかわいいと思う選手は、カイリ・セインや柴雷イオ、アレクサ・ブリス、ニッキー・クロスなどだ。このベッキーも小柄でかわいい。

2019年8月には、男子スーパースターの当時、同時期に WWE ユニバーサル王座を巻いていた、セス・ロリンズとの婚約を発表した。

しかし、ロリンズは、“フィード”（悪霊）ブレイ・ワイアットに王座を奪われて、丸腰となったが、ベビーフェースからヒールターンして、ロリンズの軍団を作った。ちなみに現時点でのメンバーは、ロリンズ、AOP（アカム&レーザー）、バディ・マーフィーである。私はここにベッキーを女子選手ながら、何らかの形で軍団入りさせたら面白いのではないかと考えている。男女で試合が成立しないにしても、ロリンズのセコンドにつくとか、女子選手から男子選手に攻撃するのは、WWE の視聴者には問題ないわけだから、実現すれば、ショーン・マイケルズやトリプル H 達の D・ジェネレーション X の、女性のチャイナ（ジョーニー・ローラー）のような存在になれる気がする。

だが、ベッキーは今、ロウ女子王座を巻いていて、圧倒的なベビーフェースだけに、それはちょっと難しいという見方もあるだろう。

最近のベッキーは、ようやく勝てなかった唯一の相手、ASUKA から勝利したが、“NXT”所属のシェイナ・ベイズラーに首の後ろを噛まれて大流血した。ベッキーは WWE 特番“レスルマニア 36”辺りでシェイナと戦う可能性があるが、なんとか雪辱を果たしたい。(終)

2020年6月21日（日） WWE・女子

Sareee（サリー）の、WWE への挑戦が決定！ モチベーションは何か？

女子プロレス団体、ディアナに所属していた Sareee（サリー）（24歳）の、WWE への入団が発表された。

私が、Sareee の存在を知ったのは、女子プロレス団体、スターダムのワールド・オブ・スターダム選手権で、岩谷麻優が渡辺桃から王座防衛をして、次の対戦相手を探している時だった。ビジョンに Sareee の姿が登場すると、丁寧な語り口で「次、あなたのワールド・オブ・スターダム王座に挑戦します」と言った。実況も女子プロレス頂上対決と煽った。

しかし、試合前日、Sareee が体調不良の為、欠場することになったのだ。

『週刊プロレス 2020.6.3 No.2066』で、「藤波辰爾と Sareee の対談」という表紙があった。最初は買わなかったのだが、Sareee とはどんな人物か？ ということを知りたくて、週刊プロレスを購入した。すると Sareee は WWE に挑戦すると書いてあった。今の WWE と AEW の流れの中では、AEW に行ってしまうこともあるのではないかと考えたが、Sareee は WWE を選んだ。

ASUKA は日本ではいろいろ飛び回ったと思うが、カイリ・セインと、柴雷イオは、共通のスターダム出身というバックボーンがあった。そこにディアナのまだ若い Sareee が加わることになるが、WWE は TOP になるまで信じられないくらい時間がかかるので大丈夫だろうか？ モチベーションにしても ASUKA はグランドスラム（WWE・ロウ女子王座、WWE・スマックダウン女子王座、NXT 女子王座、WWE・女子タッグ王座）を取って日本人の女子部門という意味では達成された感もあるが、それはカイリやイオも同じで、自分は自分の道を地道に歩いていくという気持ちでいるだろう。懸念されるのは、ASUKA はともかく、カイリやイオのように身長があまり高くないので、ナイア・ジャックスのような大型の相手と戦う時にパワーで歯が立たないというケースがあることだ、そこはテクニックでなんとかしたい。

Sareee はどんなファイトをするのだろうか、ユーチューブで彩羽匠とのシングルマッチを見た。週刊プロレスでは、「Sareee は激しいファイトを持ち味としている」とあったが、非常に負けん気が強そうだった。スープレックス（投げ技）が得意ということで、腕を片手でロックした状態のバックドロップや、ジャーマン・スープレックス、キャプチュード（バスター）、裏投げなどのスープレックスを魅せていた。重い、匠を投げられたから心配なさそうだが、WWE の大柄な外国人を投げ飛ばせれば、問題はないだろう。

モチベーションは、Sareee の前に WWE が待ち受けていることだろう。応援する！（終）

2019年9月3日（火） WWE・女子

“NXT UK” 所属。トニー・ストームは、カッコいいロックンロール女性！

私がトニー・ストームを知ったのは、WWE の、“メイ・ヤング・クラシック (MYC) 2018” の決勝で、柴雷イオと戦ってからである。正直、その試合を見た時はイオのほうを応援していたのだが、トニーも綺麗でカッコいいな、と思った。イオを破った時のトニーの必殺技はタイガードライバーだった。

“第1回 MYC” にも出場していて、準決勝でトニーはカイリ・セインと戦い、カイリのインセイン・エルボーで敗れている。

トニーは“NXT UK” 所属となり、初代 NXT UK 女子王座決定戦では、決勝でリア・リプリーに敗れた。しかし、2代目王者になったが、先日、ケイ・リー・レイに敗れて王座を失った。

私は、先程も書いたように、トニーを知ったのが遅かったから、日本の女子プロレス団体、スターダムに所属していたのを知ったのも、“MYC 2018” の後くらいで、スターダムではタイガードライバーが必殺技であったかどうかはわからない。ギロチンドロップか？

トニーはまだ若くて、1995年生まれの23歳。

トニーは、一言で言えば、カッコいい。顔の右目の下に黒いペインディングをしている。そして、第1回 MYC では、負けても、カイリに日本語で褒めたたえるなど優しい性格をしている。音楽のロック系の女性なのに優しい性格をしているし、まだ若いので、NXT・ユナイテッドキングダム女子王座 (NXT・UK 女子王座) でのマイク合戦の時には、リア・リプリーに指で小突かれたりして、うつむいていた。と思ったら、結構大柄なトニーは、リアにタックルをかまして乱闘状態になったこともある。

私は、今は、トニーは、カイリ、イオに続いて3、4番手くらいに好きな女子スーパースターかもしれない。ナタリア、マリア・ケネリス、ニッキー・クロス、ペイジなども好きだが、一気に抜いた感がある。

トニーは、先日、NXT・UK 女子王座を失った。最近の“NXT” には、リアが登場して、シェイナ・ベイズラーにマイクで喋ったシーンがあった。“NXT UK” ではベルトも獲ったから、自由な存在のトニーは、メインロースター (1軍) はないと思うが、“NXT” のほうへ登場する可能性はある。すると、また“MYC 2018” の決勝で対決したイオと抗争するかもしれない。イオは今ヒールだから、トニーはベビーフェイスとして。(終)

### 3. ビッグマッチ・大会。

2020年4月6日（月）

WWE “レスルマニア 36” を、見ての感想と苦言！ 必殺技だけの連発決着は廃止しろ！

WWE が、新型コロナウイルスの感染が騒がれる中、2020年4月4日と5日（アメリカ時間）の2日間、“レスルマニア 36” がパフォーマンスセンターで開催された。無観客試合だったが、私としては、この大会が行われて、ユーチューブで見られたことで、非常に楽しめた。

日本人スーパースター（プロレスラー）も、中邑真輔、ASUKA、カイリ・セインが出場するなど、嬉しかった。

その中で、1日目の、WWE ユニバーサル選手権。（王者）ゴールドバーグ — （挑戦者）ブラウン・ストローマンでは、ゴールドバーグのスピアの連発と、ストローマンのパワースラムの連発で、あっけなくストローマンが勝利した。新王者である。

2日目は、WWE 選手権。（王者）ブロック・レスナー — （挑戦者）ドリュー・マッキンタイアの試合だったが、この試合もレスナーにスープレックス・シティ（ジャーマン・スープレックス）や、F5の連発はあったが、マッキンタイアのクレイモア（キック）の連発で、あっけなくマッキンタイアが勝利した。こちらも新王者である。

2つの最高位王座戦が、こんな適当な数分の試合で、大技を出すだけの試合というのは残念だ。特に、ゴールドバーグやレスナーは、元々、そういうタイプのレスラーだろうが、やはりメインイベンターは、“ストーンコールド” スティーブ・オースチンや、ショーン・マイケルズ、トリプル H、ブレット・ハート……などのように、プロレスのテクニクを魅せるような玄人が務めるべきだと思う。こういう試合をするのなら、最高位王座のメインクラスでやらないで、中間の試合でゴールドバーグやレスナーは試合してほしいと感じた。

あとは、私は、ジ・アンダーテイカー — AJ スタイルズの試合を楽しみにしていたのだが、プロレスのリングでは戦わないで、墓場マッチとして、外で戦う試合になっていた。それもアドリブで動くのではなく、映画のようにもう台本（シナリオ）が決められていて戦うのだ。過去のメキシコのルチャ・アンダーグラウンドのような物語のあるプロレスである。私は、プロレスの未来は、変わっていくことは否めないとしても、やはり、人間と人間が（レスラー同士が）リングで真っ向から戦う試合を見たい。

他にも、ジョン・シーナ — “ザ・フィード” ブレイ・ワイアットの試合？ は、まったくプロレスではなかった。他は、ちゃんとレスリングをしていた試合もあったので文句はない。本来、ゴールドバーグやレスナーも、長い試合をできるスーパースターのはず。（終）

2019年8月18日（日）

## G1 CLIMAX 29。飯伏幸太の優勝と、感想！

新日本プロレス。8・12 日本武道館で、G1 CLIMAX 29 の優勝決定戦が行われて、飯伏幸太がジェイ・ホワイトを破って、G1 CLIMAX 29 覇者に輝いた。

まず、私は、飯伏とジェイという対決が面白いカードだと思わなかった。

Aブロックは、飯伏とオカダ・カズチカが勝ち点14で2人が抜け出したが、直接対決の関係で飯伏が勝ち上がったようだ。オカダのIWGPヘビー級王者、NEW JAPAN CUPに続く、G1の三冠獲りは叶わなかった。

Bブロックは、ジェイが12点でトップ。後藤洋央紀、ジョン・モクスリー、内藤哲也が10点だった。

G1の決勝で、セコンドの外道が介入してしまうというのも、今の新日本の景色では、普通のことになっているのかもしれない。

飯伏は開幕戦のKENTA戦で、左足を怪我したのに、Aブロックを勝ち上がったというアングル（シナリオ）も怪しい。

このように、飯伏の痛めている左足を、ジェイが攻めるという構図は、武藤敬司が、片足を徹底的に攻めて、足四の字固めに行く構図に似ていて、素人でも見やすい。

番組作りも解説も、飯伏を応援するスタンスになっていて、これでジェイが勝って、お客を帰らすとは考えにくいと思った。

飯伏はなんというバキバキな身体をしているのか。

ジェイもやや茶色い、口ひげとあごひげが似合っている。風格が出た。

ジェイのドラゴンスクリュー（レッグレイス）は見事。

ジェイは綺麗な目をしている。ガラス玉の様な。

新日本プロレスグループは、今年の優勝者は飯伏というのはあったかもしれないけど、ボマイェの前の「イヤアオ！」の一体感も多少、優勝者になる要素になったのかもしれない。

ジェイはクロスアームのブラディーサンデーを出したが、プリンス・デヴィット（現・WWE、フィン・ベイラー）や、AJスタイルズも使っていたから、バレットクラブで継承されている技なのか？

飯伏、最後はカミゴエ2連発で決着。

### ★感想。（おまけ）

飯伏は、最後のマイクは上手く締められなかった。飯伏は新日本プロレス所属になったから、最初のオープニングの顔写真に加わる可能性もある。飯伏はこれで、今年中か来年の東京ドーム頃に、オカダかわからないが、IWGPヘビー級王座に挑戦の可能性も！（終）

2020年1月5日（日）

新日本、2020年、1月4日、東京ドームは、オカダと内藤が勝ち上がり！感想！

私は、新日本プロレスの1月4日、東京ドーム大会は、テレビを録画して翌日の1月5日に見た。その試合の順番で感想を書こうと思う。

実況は4万人で満員と言っていた。まず、いきなり“ケロちゃん”こと、田中秀和リングアナウンサーが現れ、「獣神サンダー・ライガー入場！」とコールした。

1つ目の試合は、ライガーを含むタッグマッチだったが、オールスターの技の競演だと思った。ライガーはフォールされた。

2つ目の試合は、IWGP ジュニアヘビー級選手権。(王者) ウィル・オスプレイ — (挑戦者) 高橋ヒロムだった。

IWGP ジュニアヘビー級のベルトってあんなに小さかったっけ？ と思った。AEW でもAEW 女子世界王座のベルトは凄く小さいけど、IWGP ジュニアヘビー級のベルトはもっと大きくした方がいい。

悪いけど、オスプレイがここで負けてしまうようだと、少しプロレスを疑ってしまうな。

やはり、オスプレイは負けて、ヒロムが勝ってしまったか。これで、オスプレイはそろそろジュニアを卒業して、ヘビー級に進出して欲しい。

3つ目の試合。IWGP インターコンチネンタル選手権。(王者) ジェイ・ホワイト — (挑戦者) 内藤哲也。

内藤哲也の入場テーマ曲しびれる。

内藤が、ジェイのセコンドの外道の髭を引っ張り、ジェイを挑発するというのは、完全な“怒り”の試合ではない。だが、ジェイがゴングから場外へ“間”を取ったので、内藤は機転を利かせたのだろうが。

内藤は勝った。これで正直、2冠を取って欲しいけど、ジェイに勝ってインターコンチネンタル王者になったというのが嬉しい。だが、明日1.5で負けたら失うのだけれど。

4つ目の試合。IWGP ヘビー級選手権。(王者) オカダ・カズチカ — (挑戦者) 飯伏幸太。

ラグビー選手や、プロ野球の内川聖一選手……などがオカダに勝って欲しいと推すので、女子プロゴルファーの勝みなみ選手は飯伏幸太を推していたが、この入場の派手さといい、オカダが勝つしかないと思った。明日も内藤がオカダに勝つのは難しいかもしれない。

飯伏にしても、ジェイにしても、感情移入できないよ。オカダ — 内藤なんて最高のカードではないか？ ブシロードはどちらを選択するのか？ 私は内藤を応援する。(終)



2020年1月6日（月）

新日本、2020年1月5日、東京ドーム。内藤哲也2冠王獲得も KENTA が襲撃！感想。

何かが起こる。1月5日（イッテンゴ）というストーリーは変わらなかった。

私は、テレビの『ワールドプロレスリング』の放送で、新日本プロレス2020年1月5日、東京ドーム大会を見たので、その順番で書いていく。

1つ目の試合では、棚橋弘至 — クリス・ジェリコ。ジェリコは現、AEW 世界王者だから、ここで敗れると新日本より、AEW が下となってしまうが、棚橋が勝てば AEW の TOP より上の選手として評価されるかも。

この試合とは関係ないが、ラグビーのツイ・ヘンドリック選手が、(ラグビーW杯2019日本代表)「日本はストーリーより、レスリング自体にフォーカスがあたります」という分析が的確で良かった。でも、WWE のレスリングもよく見ると、ちゃんとレスリング技術があった上だと思う。

ジェリコのジュダス・エフェクト (バックエルボー) は、以前インターネットのニコニコ動画では、不評だった。「あの技はかっこ悪い」と書かれていた。私はジェリコなら似合うと思っちゃうけど (笑)。

2つ目の試合。ライガー引退試合だが、このジュニアの部門をライガーの後、誰が盛り上げていくか、それはファンもジュニアを好きになる姿勢が大事だろう。

3つ目の試合。NEVER 無差別級選手権。(王者) KENTA — (挑戦者) 後藤洋央紀。

KENTA は、やはり WWE にもいた経験もあるし、気の強さもあるので良いよね。

これは今回の大会の試合内容だけでいったら、ベストバウト級の試合。

最後は、後藤が KENTA を GTR で破り、新王者へ。

4つ目の試合。IWGP ヘビー級・IWGP インターコンチネンタル ダブル選手権。(IWGP ヘビー級王者) オカダ・カズチカ — (IWGP インターコンチネンタル王者) 内藤哲也戦。デスティニーノで内藤が勝利して2冠王。応援するのは内藤だけど、やはり器の部分ではオカダが勝つ気がする。史上初の2冠王は、ジェリコが WWE 時代、WWE 王座と WCW 王座 (WWE の最高位王座ベルト/WCW の最高位王座ベルト) の2冠を史上初めて統一したように、一生残る記録と記憶で、ジェリコみたいに自慢できるから面白い。

内藤、やったな。2冠王だ。これは個人的に非常に嬉しい。そして最後の内藤のマイクパフォーマンスで大合唱と思ったら、KENTA が乱入して、ただでは終わらなかった。これも、新しい新日本の形だろう。内藤は2冠王だし、IWGP ヘビー級王座戴冠も2度目だ。(終)

2020年5月17日（日）

ジュリア、シンデレラトーナメント優勝！ 朱里との同門対決制し、粘る刀羅ナツコ破る！

女子プロレス団体、スターダムのシンデレラトーナメントは、テレビ番組の『We are STARDOM！！』では、ようやく、準決勝と決勝が放送された。

準決勝は、片方のブロックは、ジュリアと朱里が勝ち上がり、ドンナ・デル・モンドの同門対決となった。

もう片方のブロックは、両者失格などがあり、刀羅ナツコが自動的に決勝進出をすることが決まっていた。

私の楽しみは、決勝もそうだが、ジュリアと朱里のドンナ・デル・モンドの同門対決がどんな試合になるか？ だったが、朱里がリーダーのジュリアにまともな形で勝つことはないかと踏んでいた。また、逆に、ジュリアが実力者の朱里にまともな形で勝つことはないだろうと踏んでいた。だから、オーバー・ザ・トップロープでジュリアが勝つだろうと思った。

このシンデレラトーナメントのルールというのは、例えば、1回戦の岩谷麻優 — 木村花のように、もったいないマッチメイクが組まれても、オーバー・ザ・トップロープや、10分時間切れドローで両者失格など、まともに決着しないことが多い。だが、好カードはたくさん提供するという形だ。だから、逆にそのルールがシンデレラトーナメントは面白く思えた。この辺も代表のロッキー小川さんのアイディアなのだろうか？

準決勝は、ジュリア — 朱里。試合開始で握手と見せて仕掛けたのは朱里のほうだった。それにしても、ジュリアは首を怪我していたらしく、痛々しいサポーターが何枚も首の周りに巻かれていた。朱里が腕ひしぎ逆十字固めを狙うが、ジュリアはロックを外さない。朱里は更にロープにぶら下がり式の腕ひしぎ逆十字固め。両者はトップロープを超えエプロンで攻防するが、ジュリアのビッグブーツで朱里が場外へ落下して、オーバー・ザ・トップロープでジュリアが勝利した。やはり、これは予想通りだったが、4分程と早く勝利した。

決勝は、ナツコ — ジュリア。ナツコは後から登場すると、ジュリアに後方から奇襲攻撃に出た。ナツコもジュリアもレフェリーを押し倒す激しい試合になる。ナツコはヒールユニット、大江戸隊のセコンドの鹿島沙希からチェーンを受け取り、最初は使わなかったが、レフェリーの目を盗んでチェーン攻撃をした。しかし、最後は、ナツコの変形昇天を返したジュリアが、グロリアスバスター、グロリアスドライバー。しかし、大江戸隊のリーダーとなった意地か、ナツコはぎりぎり返す。だが、最後はステルス・バイパーでタップアウト。

ジュリアコールまで起こった一戦、ジュリアのシンデレラ姿はとても美しかった。（終）

#### 4. AEW の、男女プロレスラー。

2020年1月3日（金） AEW・男子

AEWのダービー・アリンと、オレンジ・キャッシュディについて。将来有望な2人！

最近、大富豪の新興プロレス団体 AEW を見ている。  
その中で面白い存在、多分2人共若手だと思うが、ダービー・アリンと、オレンジ・キャッシュディがいる。

アリンは、他のプロレスラーと比べても、とても細い身体をしている。登場シーンでは、基本、スケートボード（スケボー）に乗って登場してくるのがカッコ良い。そして、顔のペインティングは、顔の半分が白と黒の、ガイコツのように塗ってある。だから、身長差はあるが将来のスティングのような存在にも感じるし、AJスタイルズのように小さいけどヘビー級と戦っていくというイメージを感じる。

私が最初 AEW でアリンを見た時は、リングベルが鳴っても、コーナーに座り込み「やる気のなさ」や「かっこつけ」で売っていくのかと思ったが、ギアが入ると、場外へのトペ・スイーダを3連発でお見舞いするなど、ガッツ溢れるファイトを魅せた。

その後もジョン・モクスリーと戦ってアリンが持ってきた黒い袋に、逆にアリンが入れられて、やられてしまったこともある。

しかし、すぐに評価が認められて、AEW 世界王座選手権で、王者のクリス・ジェリコに挑戦したが、さすがにジェリコにも圧倒されて適わなかった。これからだ。

キャッシュディについては、もしかしたらマニアの間では有名な選手かもしれないが、キャッシュディはベストフレンドという2人組と関係を良くしている。

恰好はGパンにTシャツで、蛍光色のサングラスをかけている。

戦い方も両方の手をGパンのポケットに突っ込みながらほとんど戦っている。Gパンに両手を突っ込みながら、クローズライン（ラリアット）が来たと思うと、顔を下げて交わして、ショルダータックルを浴びせる。場外ならGパンに両手を突っ込みながら、ダイブする。更にGパンに手を突っ込みながら、舐めたような緩いローキックを両足で浴びせる。

ファンからもその動き・存在が面白いと映るようで、キャッシュディが相手の攻撃を受けたりすると、その相手に対して、ブーイングが起こる。

ある時には、突然リング下のラダーを出すと、その上に仰向けになって登場するサプライズを魅せるとか、タッグマッチでは、タッチを待たされて、ようやくキャッシュディにタッチが行くとファンが盛り上がるという感じだ。

AEWは自由だから、こういうことが許されるのだろう。アリンはもう少し身体を大きくしたいし、キャッシュディについては、今の感じでいけば飽きられることはないと思う。（終）

2020年3月2日（月） AEW・男子

謀略家、MJF（マックスウェル・ジェイコブ・フリードマン）について。

かつて中邑真輔が自分の著書で、「日本人は（もしくは人間は）、長い物の名前や、選手の名前を、覚えて言いたがる傾向にある」と話していた。

例えば、朝青龍の兄のMMAファイター、ドルゴルスレン・スミヤバザルという名前も覚えて言いたがる。

サッカーでは、セルビア人ミッドフィルダーのセルゲイ・ミリンコヴィッチ=サヴィッチが一時ロシア・ワールドカップで面白い名前として流行った。

プロレスでは、DDPが（ダイヤモンド・ダラス・ページ）として有名である。

私が同じように注目しているのが、プロレスラーのMJF（マックスウェル・ジェイコブ・フリードマン）である。（以下、MJF）。この選手も名前が長いのでほぼMJFと呼ばれている。私は最近までWWEや新日本プロレスしか見ていなかった。ようやく去年の11月からAEWを見るようになった。

MJFは、AEWでAEW世界選手権。（王者）クリス・ジェリコー（挑戦者）Codyのタイトルマッチに乱入してCodyを裏切ったヒールである。

その他にも最近の映像か、昔の映像かわからないが、ユーチューブ上にMLW（メジャーリーグ・レスリング）という団体にも出ている。でも、新興金満団体のAEWで良いポジションのMJFが、MLWで負けたりしているので昔の映像の可能性もある。

AEWで同じヒールとして手を組む形となったジェリコとMJFだが、ジェリコがホストのおしゃべり番組のポッドキャストにMJFが呼ばれたというのは、それだけMJFの評価が上がったということだろう。

このポッドキャストにはかつて中邑もジェリコに呼ばれて登場して、WWE日本公演の際に2人で話し合った。それは中邑の本の中に2人のトークが記載されていた。

MJFは23歳。それなのに喋りも抜群だし、ヒールとしてのセンスも感じる。若いせいなのかCodyからプールに投げ落とされるというお茶目な面もある。MJFが自分自身で試合するのは意外と珍しいのだが、あまりレスリングの巧さで売っていくタイプではないような気はする。ただ顔つきとかは嫌みな雰囲気醸し出しているが、これはプロレスラーとしては利点だ。

私はMJFにはこれからも注目して、新たな時代のヒールとして応援したいと思う。（終）

2020年6月20日（土） AEW・男子

AEW、サミー・ゲバラ、マイク・タイソンの大乱闘に興奮！ クリス・ジェリコの弟子。

サミー・ゲバラは弱冠26歳の、AEW所属のレスラーである。以前、日本のDDTプロレスリングに登場したことがあり、ケニー・オメガのDDTとのラインが繋がっていたことが、AEWに所属したきっかけになったのだろうか？ ついでに言うと、今のWWEのトライアウトも受けたようだが、今のWWEではレスラーが多すぎて、出番がないと判断したらしい。やはり、その通りでWWEは出場待機のレスラーが多いが、AEWでは“ダイナマイト”と“ダーク”という番組があるので、比較的どちらかには出られる、その辺が理由のようだ。

ゲバラは178cm、84kgとクルーザー級の体格をしているが、AEWではヘビー級の相手とも戦っている。クリス・ジェリコがリーダーのヒール軍団、インナーサークル（ジェリコ、、サンタナ、オルティズ、ジェイク・ヘイガー、ゲバラ）の5人で組んでおり、ゲバラにとってジェリコは師匠的な存在だろう。一時はジョン・モクスリーを5人がかりでテーブルにパワーボムをすとか、AEWのTHE ELITE（オメガ、“ハングマン”アダム・ページ、ヤングバックス<マット・ジャクソン&ニック・ジャクソン>）やマット・ハーディーなどとアメリカンフットボールの会場で、5対5で試合をしたりもした。

インナーサークルのジェリコと、ボクシングの“アイアン”マイク・タイソンが胸を押し合い大乱闘になった時には、若いゲバラはその出来事に興奮して、関係ないところで暴れていた。大勢のレスラーがリングに集まったので、それらの選手達を後ろからどかさうとしていた。師匠のジェリコは身体を抑えられながら、離れているタイソンに向かい、映画『ロッキー』（1976年/アメリカ）のシルヴェスター・スタローンの「エイドリアーン！」という叫びのように、泣き顔で「タイソーン！」と叫んでいた（笑）。

試合では実力もあり、特にゲバラが上で力の差がある相手と戦う時には、片ヒジをついて寝るポーズをしたりすると、そこにジェリコも来て、一緒に寝るポーズをしたりする。フィニッシュ技は、GTHという技で、リバーズGTSと例えられている。小橋建太や中西学のようにアルゼンチン・バックブリーカーの体勢にとると、そこから前に落とし空中の相手の後頭部にヒザ蹴りするという荒技だ。しかし、この技はかっこいいと思う。

ライバルには、ダービー・アリン、キップ・セイビアン、ジミー・ハボックといった若い選手の名前が挙がるだろうか？ インナーサークルでのヘビー級との戦いにも注目だ。

この調子で、まずはジェリコの元で上手く育てば、将来は大物になるかもしれない。（終）

2019年9月11日（水） AEW・男子

ダスティン・ローデス（WWEではゴールドダスト）は、メインイベンターとして使うべき！

私が初めて、ダスティン・ローデスを知ったのは、2000年のWCW時代に、リック・フレアー&ジェフ・ジャレット — ダスティ・ローデス&ダスティン・ローデスの親子タッグが抗争していた時からである。

ダスティンはそれ以前も昔、WCWにいた。

WWE（元WWF）にもいて、WWEでは、ゴールドダストの名前で活躍して人気を集めていた。タイトの中に女性物の下着をつけているという変態キャラで、入場テーマも画面の上下が黒くなり、昔のビデオを見ているような映像で、神秘的な入場テーマ曲でファンを楽しませた。女性のような長い金色の髪の毛をしているが、リングのコーナーに立つと、それはカツラで女装をしている。

ダスティンの得意技は、綺麗なパワースラムと、仰向けで下からのアップercutだ。

ダスティンが昔、WCWにいた頃は、顔にペインティングをしていた。ステイニングも白いペインティングではなく、色彩豊かなペインティングをして、2人でタッグを組んでいた。メインイベント級の扱いだったと思う。父、ダスティ・ローデスの血統というだけではなく、目の肥えたプロレスファンから見ると、ダスティンは本当にレスリングが巧いのだ。

WWEのビンス・マクマホンは、ゴールドダストを最高位王座のチャンピオンとしては売らず、あくまで、ゴールドダストという変態女装レスラーとして、エンターテイナーの部分で売ろうとしていた。もちろん、メインイベンターではない。違う団体に上がれば扱いが良くなるということはよくあった。WWEの扱われ方が悪かったとは言えず、逆に面白いという見方もできた。

最近もユーチューブでアメリカの新団体AEWを見ていたら、やはり好待遇で、こちらもWWEで活躍した、ダスティンの弟のCodyと共に、メインイベントでヤングバックス（マット・ジャクソン&ニック・ジャクソン） — ダスティン & Codyのタッグマッチが組まれていた。私はやっぱり、もうダスティンはだいぶ歳かもしれないけど、上で使えるレスラーだと、AEWのやり方にとっても納得がいった。

だが、ダスティンは、トップに立って団体を引っ張るというタイプではないだろう。（終）

2019年9月4日（水） AEW・男子

ジョン・モクスリー（元 WWE、ディーン・アンブローズ）は、今、最強である！

元 WWE、ディーン・アンブローズ。

現、新日本プロレスの IWGP ユナイテッド・ステイツ・ヘビー級王者。（IWGP・US 王者）のジョン・モクスリー。

モクスリーは、オカダ・カズチカの特集番組で、「(オカダは) 究極の超人だ」と言った。

私は、WWE ではここ数年、怪我の欠場中を除いては、モクスリーを、ディーン・アンブローズとしてずっと見てきた。AJ スタイルズと WWE 王座を争っていた時期もあれば、ブロック・レスナーに倒れている時、顔を靴で踏みつけられるということもあった。そして、やはり、ザ・シールドで、ローマン・レインズやセス・ロリンズの3人で、ベビーフェースのシールドとして、活躍した時代も見てきた。

アンブローズが、WWE を退団した理由はわからないが、今の私がモクスリーの試合を見る場合は面白いと感じられるだろうが、当時の退団前は、アンブローズの試合は面白いと感じなかった。だから、ビンス・マクマホンがクビにしたのではないかと思ったりもする。

しかし、アンブローズは WWE 退団後、すぐにジョン・モクスリーとなって、新日本のマットに登場した。そして、私はまだ、モクスリーの試合を新日本のマットでは、テレビで1試合しか見たことはないのだが、IWGP・US ヘビー級王座をすぐに獲った。相手はジェームス・ロビンソンだった。試合は高い所からダイブするなど、少しハードコアの試合でモクスリーらしい試合だった。

モクスリーは195cm もあり、100kg を超える大男だが、やはりテレビでふとモクスリーを見ていた時、「デカイ！」と思った。

昔、プロレスリング・ノアの後楽園ホールの興行で、バイソン・スミスという188cm, 130kg という大型外国人がいた。ノアは工夫を凝らして、客席から入場するサプライズをしてくれていた。私の座る端の席の横を通った時「デカイ！」と思った。あの感覚はスミスの時しかないし、今回のモクスリーにもそれを感じるのだ。

ユーチューブで見えていても、スタン・ハンセンやブルーザー・ブロディ、ベイダー、スコット・ノートンなどは「デカイ！」と感じる。

モクスリーは G1 CLIMAX に出場したが、決勝に行けず、予選で敗退した。これからは、IWGP US ヘビー級王座を防衛しながら、特にアメリカや海外では名が知れているので新日本は、海外進出では大切な存在だ。必殺技の、デスライダー（新、呼び名）を見たい。（終）



2020年6月2日（火） AEW・女子

志田光、優しそうな美しい女性。第3代 AEW 女子世界王者。

AEW 女子世界王者。

初代 里歩。

第2代 ナイラ・ローズ。

第3代 志田光。

である。

AEW は、日本人女子選手のレベルの高い評価をしてくれているのがいい。

それは、WWE にも言えるのだけれど。

私が、光を知ったのは、2019年から AEW のユーチューブでの放送が始まり、AEW 特番「ALL OUT 2019」で里歩と光が戦い、里歩が勝って、AEW 初代女子世界王者になった頃からだった。その頃から里歩や光の存在を知っていった。

最近では AEW の日本人女子選手は、光くらいしか出てこなくなっている。

光はまだ、31 歳で、とても優しそうな美しい女性で、正統派の清潔な日本人女性だ。私の知る限り、英語も喋るのが巧い。

もちろん前から応援しているが、もし、学生時代にこんな優しそうな女性教師がいたら、惚れてしまいそうである。

フィニッシュ技は、スターダムでは星輝ありさ（引退されたと知ってショックを受けた、でも応援しています）。のフィニッシュ技の1つが、SHiNiNG IMPACT という、武藤敬司のシャイニング・ウィザードと中邑真輔のボマイェ系の技を使っていた。光の場合は、魂のスリーカウントという技と、3カウントという技があり、形はボマイェと同型であるということだ。先日、ナイラを破って王者になった技も魂のスリーカウントである。

そして、光のもう1つの相棒は竹刀を使うということである。ナイラ戦はノーDQ、ノーカウントアウト戦で竹刀を有効に使えた。

AEW の女子外国人選手も、ペネロペ・フォード、クリス・スタットランダー、DR. ブリット・ベイカー、D.M.D.、王者の光の4人がライバル。そこに、今後、ナイラがどう絡むか？ということと、スターダムを主戦場に行っている、ビー・プレストリー辺りが参戦して、光ービーの試合が実現すれば面白くなる。

光は次のモチベーションをどこに持っていくのだろうか。もちろん AEW 女子世界王座のベルトの防衛ロードは1つだろうが、あれだけ英語のインタビューが抜群でも、WWE 挑戦ということは、考えられないのか？ でも、AEW で応援する日本人選手は、今は、男子ではマイケル中澤と、女子は光しかない。以前、戦ったが、光ー里歩戦もまた見たい。

光は、日本人正統派女性のプロレスラーとして、今後も海外で活躍し続けて欲しい。（終）

2020年6月28日（日） AEW・女子

AEWのペネロペ・フォードは、美貌で、超セクシー！あとはレスリングの実力だけ。

ペネロペ・フォードとは、現在 AEW に所属する女子プロレスラーであり、男子プロレスラーのキップ・セイビアン、本当の恋人かはわからないが、マネージャーである。

ペネロペとセイビアンはいつも一緒に登場すると、しつこいくらいにお互いキスを繰り返している。隙があれば、試合中にも構わずにキスをする。

アメリカ人の女子プロレスラーで、27歳。163cm、54kgと女子レスラーとしては平均的な（アベレージ）な、体格をしている。

私の知る範囲の必殺技は、フィッシャーマンズ・スープレックス・ホールドとスペースローリングエルボーのバク転が1個多い技。その動きはまさに猫のように美しい。

ライバルは、ブリット・ベイカー、クリス・スタットランダー、志田光といったアベレージクラスの体格の3人+ペネロペを含めると、アベレージ体型のカルテット4強だ。最近は見れないが、初代 AEW 女子世界王座の里歩や、2代目王座のナイラ・ローズ。日本の女子プロレス団体、スターダムと AEW に参戦している、ビー・プレストリー。などが、ペネロペのライバルになる。

ペネロペの何が凄いかというと、やはり単純に女性としてのビジュアルが超セクシーで美しすぎるどころだ。白いロングヘアをして、顔も綺麗、コスチュームに溢れる胸も理想的である。

元々はセイビアンのマネージャーとしてヒールを演じていて、今もどちらかといえば、ヒールなのかもしれないが、そのヒールでレフェリーをひきつける巧さだったり、凶器をセイビアンに渡すズル賢さだったり、フランケンシュタイナーで乱入してセイビアンにアシストする巧さなどもあった。

おそらく、AEW グループとしても、いずれはペネロペを AEW 女子世界王者にすることは考えているかもしれないが、ヒールだけど、結構正統派系の為、マイクでペラペラと喋るとか、相手をけなすというようなシーンは見たことがない。戦い方も美しさが際立つ為、ダーティー（きたないさま）なファイトがないので、強さという意味ではわからない。

外国人としてあまりにも美しくセクシーなので、今後もペネロペにとろけそうだ。（終）

## 5. 事件。

2019年7月2日（火）

TPG（たけしプロレス軍団）とは、何だったのか！？

TPG（たけしプロレス軍団）のことは、私がまだプロレスを見初めていない頃の出来事だったので、ウィキペディアなどを頼った。しかし、私はウィキペディアを頼って、丸写しにしたような文を載せるようなことは、好きではない。だから、ざっと見て、大まかに書かせてもらうことにする。

TPGの首領（どん）は、ビートたけしさん（北野武さん）だろう。その“たけし”を取って、（たけしプロレス軍団）だ。

先に2018年12月に発売された『「さみしさ」の研究』（ビートたけし／小学館新書）参照。

- ・プロレスラーのビッグバン・ベイダーも63歳で亡くなった。（中略）ベイダーはオイラが作った「たけしプロレス軍団」で新日本プロレスデビューしたんだよ。（中略）オイラ、人生であれほどのブーイングを浴びたことはなかったね。（たけしさんの文、引用。）

たけしさんは、昔はプロレスファンだったそうだが、私もたけしさんを長いこと見ているが、ボクシングのジムでスパーリングなどをしている映像はあっても、プロレスのコントや、プロレスの話をしているのは、あまり聞いた覚えはない。だが、たけし（北野武）さんの以前の映画で「菊次郎の夏」という映画だったか忘れたが、たけしさんの映画で、子供達が、選手2人とレフェリー1人の、3人でプロレスごっこをしているシーンがあった。プロレスファンの私が感心したのは、子供のレフェリーが、反則かロープブレイクに対して、きちんと「ワン、ツー、スリー……」とカウントを数えているのを見た時、たけしさんはよく見ているな、と思った。本当の今の子供は、レフェリーのやり方なんて知らないだろうな、と思った。昔は、野球とプロレス、ボクシングくらいしか、テレビで見なかったのであろうと時代性を感じた。子供がプロレスのレフェリーの所作まで覚えちゃうところが凄い。

さて、TPGには、ベイダーがいて、その日のメインイベントはアントニオ猪木 — 長州力のはずだった。しかし、TPGの人間がリングに上がり、マサ斎藤を含めて、ベイダー — 猪木を要求。ファンは猪木 — 長州を見たかったので、セミファイナルで荒れる。猪木が「ベイダーとやった後、長州とやるから」と言うと、ファンは収まったが、猪木がベイダーに負けて、猪木がメインで、猪木が長州に卍固めをかけて、長州側のセコンドのタオル投入で試合が終わったので、ファンは大暴動になった。という話のようだ。

TPGも真剣にやって、ふざけたわけではないだろうが、プロレスファンは厳しい。（終）

2019年9月18日（水）

「ローマン・レイنز襲撃事件」の黒幕と、犯人は誰なのか？の、ここまで。

WWEで、以前の特番“サマースラム”前から、今回の特番“クラッシュ・オブ・チャンピオンズ”の間で、“ロウ”や“スマックダウン”で起こった「ローマン・レイنز襲撃事件」について整理する意味も込めて、振り返ってみよう。

インタビュースペースで女性アナウンサーが、ローマン・レイنزを呼び込むと、歩いてやってきたレイنزに金属性の建物が倒れてきた。女性アナウンサーは大声を上げて助けを求めたが、レイنزは意外に無傷で、なにか不服そうながらその場を去った。

次はサモア・ジョーが、「皆、俺がレイنزを襲った犯人だと思っている、ふざけんな！」と抗議していたが、ジョーが駐車場でレイنزの到着を待つと、レイنزが車から出たが、そこに車が突っ込んできた。レイنزは咄嗟に車に隠れて難を逃れたが、腕を少し負傷してしまった。これでジョーの犯人の疑いは消えて、後日レイنزはジョーに謝った。

この2つの事件を解決するべく、レイنزが男子スーパースターズのロッカールームに行くと、「全員出てくれ」「バディ・マーフィーは残れ！」と1対1で話し合った。2つ目の車の襲撃の際、カメラに道路にいるマーフィーの姿が映されていたからだ。マーフィーは「俺は知らない」と言ったが、「その後、知っていても、お前（レイنز）に言うかよ」と不敵にニヤリと笑った。するとレイنزはマーフィーを投げ飛ばし、腕でマーフィーを壁に押し付けて、「犯人を言え！」と迫ると、マーフィーは「(エリック・) ローワンだ！」と言う。「(ダニエル・) ブライアンは？」と聞くが、「ローワンしか知らない」と答えて、レイنزがマーフィーを解放した。

犯人扱いされたローワンは、マーフィーをバックステージで投げ飛ばして、ブライアンはローワンの味方として、守ろうとする。

ある日のエンディングでは、レイنزが「今日は犯人を見つけ出す」と言うが、ブライアン&ローワンに会うと、ブライアンは不敵に「犯人は来週受け渡す」と言う。

その翌週、エンディングで、ブライアン&ローワンと黒い頭巾を被せられた男が登場するが、レイنزがやってくると、ブライアンは「こいつが犯人だ」と言い、黒い頭巾を取った。しかし、その顔はローワンとそっくりの別人の男で、真相は闇の中に消えてしまう。

レイنزは改めて、マーフィーを問い詰め「本当のことを言え！」と言うと、マーフィーは「まずは、ローワンだ！」と言う。レイنزは「まずはって？」と聞くが、マーフィーは、「とにかく、まずはローワンだ！」と答えた。

そして、いよいよ、レイنزは「犯人を見つけた」とリング上で話すが、ブライアン&ローワンの、ブライアンは、「俺達にも謝れ！」と言う。しかし、レイنزは「この映像を見る」と言う、1つ目の事件で、金属の建物がレイنزに倒れる際、防犯カメラの右の奥から建物を倒して通過する髭の男が映し出される。犯人は「ローワン」で、黒幕は「ブライアン」と思われた。すると、ブライアンがローワンを何発もビンタする、「ローワン、俺は嘘つきが嫌いだ！」と言いながら、1人でリングに向かいマイクで否定し続けたが、レイنزがブライアンを黒幕と読み、スピアを浴びせた。一件落着かと思われたが、実況&解説は「まだ、真相は謎のままです」と言っている。

ブライアンがリングで喋っていると、レイنزが登場したが、背後からローワンが襲い掛かる。だが、ブライアンはレイنزに手を加えず、むしろ、ローワンの攻撃をやめさせようとする。レイنزがローワンにやられるが、またビンタをしたブライアンをローワンはアイアンクローズラムで、実況テーブルに貫通する一撃を放ち、遂に、ローワンはブライアンを裏切ることになる。わからないのは、ローワン1人の犯行か？ 黒幕がいるのか？ だ。

特番“クラッシュ・オブ・チャンピオンズ”では、レイنز - ローワンの試合が組まれた。ノーDQ戦（反則なし戦）なのでずっと場外戦が続く。すると、私もまさか、その繋がりがあったか！ と思ったが、ブラジョン・ブラザーズとして昔タッグを組んだ、(ルーク・)ハーパーがローワンの援軍として登場した。ローワンもハーパーも大男なので、レイنزの長身を持ってしても1対2では、さすがに適わない。最後はローワンがレイنزにアイアンクローズラムを浴びせて3カウント勝利。これで、この話は終わったのか？ to be continue（続く）なのか？ わからないが、ローワンの犯行は間違いないが、もう1人は黒幕なのか？ 共犯なのか？ は、わからないがハーパーだったということがはっきりした。

#### ★感想。

この話の黒幕は、ブライアンではなかった。“特番”から2日後の“スマックダウン”では、ブライアンが、ローワン&ハーパーにやられているところに、レイنزが救出に向かったからだ。ブライアンは嘘をつかず、ローワンを守ろうとしたが、ローワンの理由は誰かの指図がなくても動けるということを証明したかったようだ。ローワンはハーパーと結託して、レイنزのキャリアを潰すため2度の犯行に及んだ。そして、ブライアンを利用して裏切った。最近のWWEではなかなかの大掛かりなシナリオだ。あとは、レイنز&ブライアンが組み、ローワン&ハーパーを倒せばストーリーは終わるのか？ わからない。(終)

6. 新日本プロレス & スターダム、男女プロレスラー。

2019年7月20日（土） 新日本プロレス・男子

飯伏幸太は破天荒ながら、IWGP ヘビー級王座を獲得する日が待ち遠しい。

飯伏幸太は1982年5月生まれの37歳。

内藤哲也は1982年6月生まれの37歳。

ちなみに、筆者の私も、1982年6月生まれの37歳。

飯伏で思い出すことと言えば、去年、2018年の新日本プロレスのG1 CLIMAXで準優勝（優勝は棚橋弘至）したことや、更に最近では、内藤をアメリカ・ニューヨークの、マディソン・スクウェア・ガーデンで破り、IWGP インターコンチネンタル王者に輝いたことだ。しかし、日本で再戦して内藤に敗れて、IWGP・IC王者は奪われた。

他には、昔、飯伏の自伝が売っていて、「上・下巻ではなく」、「最強編」と「最凶編」という2冊が売られていた。それを買った思い出もある。

私が一番、飯伏を応援した頃は、2016年の6月にWWEの“CWC（クルーザー・ウェイト・クラシック）”に出場して、準決勝でTJパーキンス（のちのTJP）にニー・バーをかけられるも飯伏がギブアップをしないので、TJパーキンスはニー・バーをかけながら、スリーパーをかけるような荒技に出て、飯伏もたまたまギブアップ。試合後は、飯伏は悔し泣きしているような映像が映っていた。

あとは、2015年の新日本、東京ドーム大会。「WRESTLE KINGDOM 9 in 東京ドーム」。IWGP インターコンチネンタル選手権。（王者）中邑真輔 — （挑戦者）飯伏が対戦して、2人とも戦いの中でキレてしまったか？ ぎりぎり止めたか？ という試合だった。最近では、飯伏がキレたかなというムーブもあるが、掌底を出すだけで、本当には沸点に達していないと思う。この中邑戦はお互いがキレていたかな、という緊張感があった。

飯伏はWWE挑戦もやめて、今のところ、新日本でやっていくことに決めたいらしい。

自伝にもあったが、昔から、1人で垂直落下式ブレインバスターぎみに落ちるムーブをすとか、シューティングスター・プレスをして、あばら骨が全部折れたという伝説を持つ。

私は、飯伏は好きなタイプのプロレスラーではなかったが、最近は少し応援している。

飯伏とWWEは、恐らく考え方が噛み合わないようだ。飯伏がWWEに挑戦する姿も見たいが、破天荒な飯伏のプロレスを見るなら、やはり日本のほうが合っているのだろう。（終）



2019年9月23日（月） 新日本プロレス・男子

タイチは、さまざまなギミックと、往年のレスラーのコピーで、実にミステリアス！

タイチは2つの方向性で面白い。

1つ目は、「鈴木軍」という、鈴木みのるがボスの軍団に加入しているが、一応はヒール軍団なのか、別にヒールではない集まりなのかはわからないが、正規軍のようなベビーフェースの方向ではない集団である。そこで、特に鈴木とタイチは、特徴を感じる存在だ。

2つ目は、そういうヒールテイスト（ヒールな感じ）を持ちながらも、タイチの戦い方は師匠・川田利明の技を、自分の技と混ぜ合わせて使っているところだ。あの「アックスボンバー！」と叫びながら、放つのは、新日本プロレス時代のハルク・ホーガンとも取れるし、全日本プロレスの大森隆男とも取れる。もし、戦い方が自分だけの技だけで戦って、川田の技を譲り受けて使っていなかったら、あれだけのコクは出なかったと思う。川田を出してくれるから、昔のファンも、タイチを見ながら川田を思い出して楽しんで見ることができるのだろう。

タイチはついに、G1 CLIMAXにも初出場して、好成績を収めた。というか、今回のG1 CLIMAXは、ランス・アーチャー以外は皆、均等に好成績というのが、なんか保険をかけたようでありよくなかったが、それでもタイチは頑張った。

「北斗の拳」のギミックや、ディーバのあべみほ、などは、タイチを益々謎にさせる。フィニッシュ技のブラック・メフィストも、名前の由来は、川田が海外修行に行っていた時のリングネームだということが本に記されてあった。

私が正しいか正しくないかはわからないが、川田は全日本プロレスで激しいプロレスをしていたので、そこに戻れということは言いたくない。せっかく川田の技を譲り受けているのなら、顔面ハイキックも相手の顔面にモロに入れるとか、デンジャラスバックドロップももっと角度をつけてもいいように思う。私は、テレビで見ているだけなので、本当は結構、エグく入れているかもしれないし、角度もあるのかもしれない。

タイチの欠点は、技が軽く見えてしまうところだと思う。身長が177cmと小さいので、体重は100kgあるが、細身なので、あまり迫力のある、壊すような技を見ることができない。でも、どんどんと新日本で存在感は上がっている。ミステリアスで面白い存在だ。

NEVER 無差別級王座も2回獲っているのですが、以前、内藤哲也からIWGP インターコンチネンタル王座は奪えなかったが、IWGP が欲しいだろう。今後のタイチに期待だ。（終）

2020年4月18日（土） スターダム・女子

朱里 ～モノが違う女～ UFC 日本人女子ファイター初勝利者。

元、UFC で、日本人の女子ファイターとして（厳密には、日本人とフィリピン人のハーフだが）、アジア人としても初の勝利を挙げたのが朱里である。

MMA やキックボクシングでも活躍して、初代ストロー級クイーン・オブ・パンクラシストや、初代 Krush 女子フライ級王者にも輝いている。

私が朱里の存在を知ったのは、東京スポーツのジュリアが率いるユニット、ドンナ・デル・モンド（以下、DDM—世界に弾けるオンナたち）の特集や、女子プロレス団体、スターダムでの試合を見るようになって知った。

朱里の経歴の中に UFC で活躍したという情報を聞いて、「どんな選手なのだろう？ 楽しみだな」と思った。

まず、～モノが違う女～というニックネームがいい。このニックネームに名前を加えただけで、こうして、今、朱里の記事を書きたくなったのだ。

プロレスでは、ハッスルのリングでデビューしたようだし、必殺技もパズソーキックというところを見ると、朱里は TAJIRI が関わった選手だろう。去年 12 月の週刊プロレスの選手名鑑によると、MAKAI という団体？ に所属していたようだ。

テレビで見るスターダムでは、DDM のジュリア、朱里、舞華の 3 人で、早くも第 23 代アーティスト・オブ・スターダム王者に輝いた。

試合を見ていると、朱里はそんなに、MMA やキックのスタイルに固執しているわけではなくて、普通にプロレス技を展開している。例えば、バッククラッカー、ヒザ蹴り、ハーフハッチスープレックス、フライングメイヤーからの背中へのキックや、胸板へのキック、そして、パズソーキック、ジャーマン・スープレックスも得意技のようだ。

今は、自分が決めるというよりも、フィニッシュはリーダーのジュリアに任せて、舞華とともに援護しているという感じだ。ちなみに朱里はジュリアより年上だ。

朱里の一番気になる相手は、渡辺桃のようだ。やはりこの DDM の 3 人もいずれは、シングル戦線に食い込んでくれば面白くなる。朱里の MMA やキックの殺法がどれだけ凄いかをシングルマッチで見たいところだ。

朱里は女性らしく、宝塚や少女漫画も好きなようで、雰囲気はとても優しそうだ。（終）

2020年5月12日（火） スターダム・女子

ビー・プレストリー。スターダム No.1 外国人について。「全てがアベレージ以上ですね」。

女子プロレス団体、スターダムの No.1 外国人選手はビー・プレストリーだ。

イギリス・ノースヨークシャー州ヨークの出身だ。

ウィキペディアによると、新日本プロレスで活動するウィル・オスプレイと交際中のようだ。ちなみに、オスプレイは 26 歳。ビーは 24 歳である。

この年齢でも、ビーはスターダムの日本人選手達に平気で、中指を立てるとか、F〇〇K と言ったりする（笑）。髪の毛の色や、コスチュームは、基本的に緑が中心である。

2017年、スターダムに参戦して、2019年に正式に入団して、今（2020年）はスターダムで活動しながら、AEW のリングにも上がっている。

スターダムの最高位王座、第 11 代ワールド・オブ・スターダム王者であり、第 17 代ゴッデス・オブ・スターダム王者（パートナーはジェイミー・ヘイター）である。

ビーの体躯は太っても、痩せてもいなくて、アベレージ以上。顔は美人だがアベレージ以上。プロレスのレベルは高く、これは飛び抜けている。でも、ビーを表現するに一番良い表現は「全てがアベレージ以上ですね」だ。

スターダムは、ブシロード傘下の新体制になっているが、今までの有望なスターダムの外国人レスラーは、ほとんど WWE に移籍してしまった。ビーも今、AEW にも上がる形を取っているが、この逸材をなんとかスターダムに残して、移籍させないで欲しいという気持ちがある。だから、スターダムの代表のロッキー小川さんなどが、ビーを飽きさせない団体にさせなくてはいけないかもしれないが、その辺はロッキー小川さんならいろいろ考えているだろう。

ビーは元々、スターダムのドラフトで、クイーンズ・クエストというユニットに加わったようだが、テレビ放送をされて見たが、裏切りで、ヒールユニット？ の大江戸隊に入った。普段、タッグを組んでいたジェイミーも大江戸隊にいたので、これでタッグを組んでも何も問題がなくなった。でも、レジェンド、豊田真奈美の必殺技、ジャパニーズ・オーシャン・サイクロン・スープレックス・ホールドと同型の技、クイーンズ・ランディングという名前の技名は、ユニットを移籍しても変えずに大切に使っている。その他、リーガル・プレックス、カミゴエといった技も使っている。

ビーは既にシングルとタッグでトップに立った。この No.1 外国人選手に注目だ！（終）

2020年5月31日（日） スターダム・女子

星輝ありさの、プロレス引退について（お疲れ様です。本当にありがとう）。

星輝ありさがスターダムを主戦場に戦っていたが、首と頭部の負傷でプロレスラーを引退することになったと聞いてショックを覚えている。ワンダー・オブ・スターダム王者の連続防衛記録更新も期待されたが王座返上した。これはしょうがない。

私が、ありさを知ったのは、スターダムの番組『We are STARDOM!!』を見ているうちにファンになった。もっと詳しく言うと、確か、キックボクシング、KNOCKOUT!のぱんちゃん璃奈との合同練習で話をしているのを見ているうちに好きになった。

ありさは、身体の線は細いけど、結構、身長は高いな、と思った。

以前は、もっとありさのことを知りたくなくて、あまり個人的な情報を見ないようにしている私だが、ユーチューブでありさと中野たむが、一緒に食事をして話している映像を見た。ありさはタピオカを飲んでいた（笑）。

他にも、週刊プロレスで、趣味の欄に、音楽活動（作詞・作曲・歌）……などと書いてあったので、ユーチューブで探すと、ありさの入場テーマにもなっていた、「SHAiNiNG STAR」という曲をギター2人とベース1人と一緒に、浜辺で歌っているのを見て、私は「カッコいい！ こういう作品を作りたい！」と思う程だった。その他にもユーチューブ上ではありさの違う曲もたくさんアップされていて、よく聴いたりしていた。ありさの明るい声が好きだったから、とても音楽活動のほうも楽しめた。不謹慎ではないといいが、首や頭部の負傷に影響がなかったら、音楽活動は続けて欲しいところだ。

ありさはプロレスでは、スターダムの1期生ということで15歳の時にデビューしていた。常に明るい性格から“闘うパワースポット”と呼ばれる。2012年に引退するが、2018年にスターダムに復帰した。

シュートボクシングのほうでは、2試合戦って2戦1勝1敗で、1KO勝利を奪っている。

やはり、ありさと言えば、必殺技がブラジリアンキックという蹴り技、プロレスで見ていると、蹴りで普通に倒れたのかなと思うが、レフェリーがカウントを数えると3カウントが自然と入る恐ろしい技だった。でも美しい技でもあった。ありさは顔もかわいいし。

今回のTOKYO MXのスターダムの放送のおかげで、失礼ながら短い間だったけど、ありさと画面を通して出会うことができたことは、私は幸せだった。この出会いと思い出を大切にしながら生きていこうと思います。ありさ、お疲れ様です。そして本当にありがとう。（終）

2020年2月5日（水） スターダム・女子

スターダムのアイコン、岩谷麻優という平和！

女子プロレス団体、スターダムのアイコン（象徴）にして、今や、女子プロレス界のアイコンと言われる岩谷麻優。やはり、スターダムのテレビ番組『We are STADOM！！』が始まり、麻優をたくさん見られるようになった。綺麗で、かわいくて、その両方の要素を持っている。ワールド・オブ・スターダム王者ではあるが、そのタイトルや1期生というのも関係なしに、やはり、スターダムのアイコンである。そんなに麻優の本性を知っているわけではないが、戦いに平和を感じるのだ。

例えば、木村花 — ジュリアの抗争などは、非常にギラギラして、喧嘩マッチ風で、楽しみだけど、ドキドキ感を味わってしまって、なんか緊張する対決だな、と感じてしまう。

その点、麻優に限らないのだが、麻優の試合は、喧嘩マッチという物ではなくて、純粋に純プロレスを提供してくれる安心感がある。

そもそも、麻優は、現・WWEの柴雷イオとカイリ・セイン（元、宝城カイリ）の3人で、スターダム3人娘（スリーダム）と言われていた。カイリとイオはWWEに飛び立ったが、麻優は、日本に残って「スターダムでやっていきたい」という意思が強いようだ。

昔の麻優をよく知らないが、昔は骨のように細く大丈夫かな？ と思った。しかし、最近の戦っている姿を見ると、その時の表情がとても綺麗なのだ。

ブシロード傘下のスターダムでも、ワールド・オブ・スターダム王者になり、まさにスターダムを引っ張る中心的立場にいる。先日は、引退を控えていた花月から王座を防衛して、ユニットは違うが、最後の試合ということか、握手を交わした。そこへ、渡辺桃が丁寧な口調で「岩谷麻優さん、王座に挑戦させてください」と入った。岩谷も承諾して、この麻優 — 桃のワールド・オブ・スターダム選手権も行われるであろう。ここに、花や、ジュリアが王座に挑戦してきたら面白いと思う。私の中では、麻優の平和が乱されてしまって、またカオス（混沌）となってしまうのだが。あとは、私の注目している林下詩美の挑戦があれば見たい。まだ、所属選手の名前もそんなに覚えていないが、ビー・プレストリー（は、戦ったけど）や、星輝ありさ、ジャングル叫女……などといった王座戦も見られたら面白い。

私は、WWEのカイリもイオも好きだが、カイリと麻優は平和解決系でありあまり凶暴なイメージはない。イオも優しいが、喧嘩マッチという意味ではイオは近いかもしれない。今のジュリア系か？ 私は、スターダムで麻優の平和なプロレスを見られることが嬉しい。（終）

2020年6月5日（金） スターダム・女子

鹿島沙希（スターダム）という、キレイすぎる大江戸隊のヒール（悪玉）！

女子プロレス団体、スターダムの2期生で、鹿島沙希という女子プロレスラーがいる。

私は、スターダムを詳しくなったのは、今年、TOKYO MXで2020年1月5日から深夜放送が開始されて、最近土曜日の夜9時に放送されているのをテレビで見ているからだ。

当時は、沙希は、ベビーフェイス軍団のユニット、STARSに所属していた。しばらくはSTARSで戦っていた。しかし、結論から言えば、沙希はSTARSを裏切り、ヒールユニットの大江戸隊に加入した。大江戸隊には、花月というリーダーがいたが、引退してしまい、葉月という有力な選手も引退した頃だった。

ある日の試合中に、STARSにいた沙希が、裏切りの行動に出る。けっこう長い間マイクで辛辣に喋り、私は「沙希はキレイだけど、喋るとこんな強い面も持っているんだ！」と驚いた。だが、素直に大江戸隊に入るのかと思ったら、大江戸隊のメンバーの1人と沙希が両者手を差し出すが、歩み寄らず、お互いに「お前が（握手しに）来い！」「お前が来い」……（笑）。と言い合う状態になったが、大江戸隊の次期リーダーになる刀羅ナツコが間に入り2人を握手させて、沙希は大江戸隊に入った。

その後、大江戸隊は更に触手を伸ばし、スターダム No.1 外国人のビー・プレストリーを、ユニット、クイーンズ・クエストから裏切りの形で引き抜いて、新しい大江戸隊が誕生した。

改めて書くと、沙希とビーを獲得して、花月と葉月の引退の穴を埋めにかかった。リーダーは昇格する形でナツコが引き受ける形になった。更に、今までの大江戸隊が職人のようなイメージだとしたら、コスチュームはナツコ、夏すみれ、沙希などは、大人の女性のような黒いコスチューム一色で雰囲気を変えた。

私は、沙希のアイドルレスラー時代は知らないのだが、とても美しい顔をしていて、痩せ型で、気も強いようだ。私も見ていたら覚えてきたが、起死回生という十字架固めのような3カウントフォールを取る技を得意にしている。

最近では、大江戸隊でセコンドについて、チェーンなどの凶器をリング内に入れたりしてヒールぶりを出している。言ってしまうと、沙希のようにキレイな顔の女性が、悪いことをしてきてもファン心理としては、全然、許せてしまうところが欠点かもしれない（笑）。

タッグや3人タッグでは、タイトルを獲っているが、シングルでは意外とタイトルを獲得していない。でも、私は沙希のシングルの強さを求めて応援しようとはあまり思わない。

沙希は、ヒールで暴れ回ってもらって、いずれはまたアイドルでというのが理想だ。（終）

7. プロレスに思うこと。

2019年12月9日（月）

WRESTLE-1 GP 2005。柴田勝頼の秋山準への、顔面キックで出血はやりすぎ！

初期、WRESTLE-1 GP 1回戦で、(当時プロレスリング・ノアの) 秋山準と、(当時 BMLービッグマウスラウド) の柴田勝頼の戦いがあった。

ファンの関心は、柴田が秋山をいかに怒らせて、殺伐とした戦いになることを望んでいたと思う。

そして、試合のゴングが鳴ると、一気に柴田が秋山に飛びかかっていき、バックドロップで放り投げた。尻もち状態でリングに座っている秋山に、柴田が軽く秋山の顔面にステップキックを放った後、なんと柴田が秋山の顔面に、ミドルキックをぶち込んだ。すると秋山の顔面中が真っ赤に染まっていた。恐らく勢いよく鼻血が出たのであろう。

これは、正直、柴田の攻撃はプロレスの範疇を越えている。ファンはこういう試合を見たという気持ちもあるかもしれないが、これは、やられた秋山に聞かないとわからないが、やられた秋山のほうとしてはたまらない。

試合はその後も続くが、これは、「前田日明の長州力顔面襲撃事件」や、「小川直也の橋本真也へのシュートマッチ事件」と変わらない。

しかし、秋山は怒って、柴田を場外に連れ出すと、柴田を倒して、その上にパイプ椅子を、本気で何枚も投げつけていった。

秋山はおそらく、こういういきなり仕掛けられる試合も、長いことプロレスをやっているから、経験済みだと思うが、秋山はこういう形のプロレスのほうが返って相手をさばくだけでいいと思っているかもしれない。元、全日本プロレス時代から、巨大な外国人選手や、強い先輩、と戦ってきているので、そういう後半のダメージとスタミナが物を言う、「マラソンプロレス」や、「限界点のプロレス」ほうが大変なのかもしれない。

柴田はその後も、プロレスでは反則のチョークを仕掛けたりするが、秋山は逃れ、次第に試合展開が落ち着いてくると、スタミナやダメージのプロレスでは秋山の試合展開になり、最後は秋山が堂々勝利した。

最近のプロレスでは少なくなったが、顔面への格闘系のキックは駄目だ！ 危険。(終)



2020年1月18日（土）

## IWGP 三冠（ヘビー、IC、US ヘビー）統一王座構想！

先日の新日本プロレス、1月5日、東京ドーム大会で、内藤哲也がオカダ・カズチカを破り、史上初めて、IWGP ヘビー級王座と、IWGP インターコンチネンタル王座（IWGP・IC 王座）の2冠王に輝いた。

その、1月4日と1月5日には、IWGP ユナイテッド・ステーツ・ヘビー級王座（IWGP US ヘビー級王座）戦が2日連続で行われて、最終的にジョン・モクスリーが王座に輝いた。

私は、番組の放送を見ていたら、この内藤の2冠タイトルと、モクスリーのUSヘビー級王座の3本のベルトを懸けて、IWGP 三冠（ヘビー、IC、US ヘビー）統一王座にしてしまえば面白いと思った。下がるのではなく、前に進む為の統一王座案。

もし、3本を統一したら、かつての全日本プロレスの三冠ヘビー級王座（PWF ヘビー級王座、インターナショナルヘビー級王座、ユナイテッド・ナショナル・ヘビー級王座（UN 王座））のように、IWGP 三冠統一王座も、王者は3本のベルトをそのまま王座ベルトとして、使用すればよい。

それか、今の全日本プロレスのように、三冠ヘビー級ベルトを、IWGP 三冠統一王座も、新しい1本の統一王座ベルトにしてもいい。

もしくは、歴史のあるIWGPヘビー級王座のベルトだけを残して、IWGP 三冠統一王座と呼ぶか？ IWGPヘビー級王座と呼んで、IWGP・ICとIWGP USヘビー級の2本のベルトは封印してもいい？ かもしれない。

他には、IWGPではないが、NEVER王座も統一して、IWGP四冠統一王座とすれば、全日本とも差別化できるかもしれない。でも、NEVERはIWGPではないので、そこはちょっとおかしいことになってしまう。普通に四冠王座と呼んでもいいかもしれない。

IWGP 三冠統一ヘビー級王座に話を戻すと、IWGPヘビー級王座には、物凄くたくさんレスラーの歴史が詰まっているから、消すわけにはいかない。そして、IWGP・IC王座も中邑真輔や内藤哲也が、歴史を作ったベルトとしては大きい。もし封印したら、もったいないと思う人も多いかもしれない。IWGP USヘビー級王座は、まだ8代目位のベルトだ。封印したとしても別にそこまでの価値と歴史はない。

しかし、新日本プロレスの会社の経営からして、IWGPヘビー級王座という最高位王座に1人（例えば、オカダ・カズチカ）がドン！と座ると、その横でIWGP・IC王座というベルトで回しておく、非常に便利だというのがあろう。そして、IWGP USヘビー級王座も海外のファンにとっては、外国人同士がTOPを争うベルトという印象があるから、外国人対外国人で見やすいという世界戦略があるように思う。

今回、内藤が2冠王になった。ここで、ファンの心に響く、IWGP 三冠統一ヘビー級王座構想が実現すれば、攻めの新日本が見られて飽きない。ぜひ実現して欲しい！（終）

2020年5月1日（金）

鈴木みのる。外敵軍、真猪木軍、のような、4番でエースの寄せ集めユニットもまた見たい！

『ギラギラ幸福論 黒の章』（鈴木みのる／徳間書店）

ーパンクラスから新日本に戻ったときの“外敵軍”がそんな感じだったんじゃないですか？

鈴木みのる：たしかに4番でエースをいっぱい集めた感じだったね。あと、真猪木軍っていうのもあった。

ー（中略）

鈴木みのる：高山、俺、藤田（和之）、ボブ・サップ、中邑（真輔）の5人。

ー 以上、引用。

外敵軍というのは、天龍源一郎、高山善廣、鈴木みのる、佐々木健介、北斗晶が集結した軍団で、私は、この軍団が実際にタッグを組んで戦ったかどうかは知らないが、新日本プロレスを制圧する勢いがある強力な軍団だった。

真猪木軍というのは、前述した通り、高山、鈴木、藤田、サップ、中邑の5人が、新日本正規軍と、新日本プロレスの東京ドーム大会の、エリミネーションマッチで戦った最強メンバー。最後は鈴木が永田裕志を叩き固めて沈めて、東京ドームは真っ暗なエンディングで興行を終えるという、新日本ファンが絶望した大会ではあったが、私はそれも面白かった。

プロレスを見続けていると、軍団ができる時にまず感じるのが、負け役を数人入れているということだ。鈴木軍でいえば、時にザック・セイバーJr、タイチ、エル・デスペラード、金丸義信、TAKA みちのくが、タッグマッチの際、負け役になり、鈴木が負けるというシチュエーションはあまりない。それは、鈴木軍に限らず違う軍団でも、基本的に負け役が存在するようになっている。

外敵軍や真猪木軍のような、全員が強すぎて負け役がない。つまり4番でエースをいっぱい集めた軍団をまた見たい。いわゆる昔の、プロ野球の読売巨人軍のような軍団である。でもその場合、対抗する軍団も、穴がないぐらい最強のメンバーでないと面白くないだろう。鈴木は「負け役のような奴らに発想を変えてもらった」と語るが、あえて、鈴木のアールスター最強軍団をまた見たい。オカダ・カズチカ&内藤哲也&棚橋弘至&飯伏幸太&ジェイ・ホワイト、そして、鈴木6人組ユニット。新日本のトップの最強メンバーだ！（終）

2020年5月27日（水）

アメリカンプロレスの実況は、技の名前を変えすぎではないか？

先日、WWE の” NXT” を見ていたが、ユーチューブで見ていたため、日本語字幕はなかった。そして、日本人スーパースター（プロレスラー）の KUSHIDA が登場した。KUSHIDA の必殺技は日本ではボバーボードロックと呼ばれた（チキンウィング・アームロックと同型だった）。この技は、ダブルリストロックとも呼ばれ、柔道家の木村政彦が使っていたことから、キムラ、キムラロック、などとも呼ばれた。そして、MMA で桜庭和志がこの技を使い活躍したことからか、KUSHIDA がボバーボードロックを出したら、WWE の英語実況は敬意と頓智（とんち）を活かして、突然、サクラバロックと呼んだ。私は、サクラバロックで悪い気はしなかったが、ダブルリストロックとか、キムラという呼び名から離れてしまうことが少し残念だった。でも、レジェンドの桜庭和志の名前が刻まれるという意味ではサクラバロックで良かった。

そういった意味では、藤原喜明が以前トークショーで言っていたが、「俺の脇固めはアメリカでなんと呼ばれているか知っているか？ フジワラ・アームバーだよ！」と正直、自慢していたが、これも尊敬に値する。

プロ野球やメジャーリーグでもちょっとした違いがある。私が、子供の頃は、プロ野球で物凄い落差のフォークボールを使う投手は2人いて、野茂英雄と、佐々木主浩だった。野茂と佐々木はそれぞれメジャーリーグに挑戦したが、当時2人のフォークボールをアメリカの実況は何と表現していたかは知らない。しかし、田中将大は今もニューヨーク・ヤンキースのエースで活躍しているが、2人と同じようにボールを、人差し指と中指の間に挟んで投げる、これはスプリットと呼ばれている。なぜかアメリカの実況は日本に合わせてフォークと呼ばずにスプリットと呼ぶ。ちなみに、田中のスプリットには2種類あり、カウントを稼ぐものと、打者から見るとまさに垂直に落ちて消えて空振りを取るものがあるらしい。プロ野球では、福岡ソフトバンクホークスに千賀滉大という投手がいるが、千賀のフォークは「お化けフォーク」と呼ばれている。もし、千賀が将来、メジャーリーグに挑戦したら、アメリカの実況には、スプリットではなくて、「オバケ（お化け）フォーク」と呼ばせたい。

昔、WCW の試合を、実況、松崎年男さん、解説、（ケロちゃんこと）田中秀和リングアナウンサーが解説していた。ランス・ストームが、必殺技のカナディアンメープルリーフという、日本で言えば逆片エビ固めを出した。松崎さんは、「カナディアンメープルリーフだ！」と言ったが、ケロちゃんは冷静に「逆片エビ固めでいいよ」と返した。私も技に複数の名前はいらないと思う。だが、クリス・ジェリコの必殺技の、逆エビ固めはウォールズ・オブ・ジェリコで浸透しているかもしれない。でも、技の名前は単純でクラシカルでいいよ。（終）

2020年1月21日（火）

ジョン・モクスリーとランス・アーチャーの、スーパーヘビー級の戦いは面白かった！

ジョン・モクスリー、195cm、102kg。

ランス・アーチャー、203cm、120kg。

2人共、195cmを超える、スーパーヘビー級の対決である。

この試合は、新日本プロレス、1月4日、東京ドーム大会の、IWGP US ヘビー級選手権試合。テキサスデスマッチとして行われた。ギブアップか、10カウントKOによってのみ決着で、凶器は何を使っても良い試合だ。

『証言 UWF 最後の真実』（宝島社）

前田日明：「竹刀って全然たいしたことないんだよ。（中略）場所によってはパンと音がしてたしかに痛いんだけど絶対にケガはしない」とある。（以上、引用）。

モクスリーがアーチャーに竹刀で叩いていたが、前田の言葉が本当ならば、そんなに痛くないのかもしれない。たが、ケガは絶対はないけど、痛い可能性はあるようだ。

この試合も確かに凄いかもかもしれないが、大日本プロレスなどのデスマッチを見てしまうと、生々しい痛みという意味では、大日本からすれば、「鼻くそ」レベルかもしれない。

私が、この試合で生々しい痛みを感じたのは、最後に2人がDDTで机に貫通するところではなくて、それに入る前に、エプロンで立っていたアーチャーが、ヘルメットの鉄の針が尖った箇所を、モクスリーの額辺りに突き刺したシーンだ。その時はまだ出血していなかったから、そういう演出をただけかと思ったが、試合後、モクスリーの額から出血が見えていたので、やっぱりマジだったのだと思い、逆にリアルに感じられた。

私は、今年から、ヘビー級だけではなく、ジュニアの試合もしっかり見て行くと勝手に宣言したが、やはり、モクスリーとアーチャーのこういうデカイ同士の試合を見てしまうと、迫力があって興奮した。2選手とも私が好きなプロレスラーということもあるが。

昔で言えば、アンドレ・ザ・ジャイアント — スタン・ハンセンの田園コロシラムの超スーパーヘビー級同士の激闘はユーチューブで見たら凄かった。もちろん、最近のWWEも、ビッグ・ショー、ブラウン・ストローマン、ローマン・レインズ、ブロック・レスナー、バロン・コービン……など大きい。

そして、この試合の翌日、防衛したモクスリーに対し、「風になれ」のテーマ曲が流れると、鈴木みのるが登場した。ジャケットを脱ぐと、リングに入り、モクスリーにゴッチ式パイルドライバーをお見舞いした。ちなみに鈴木は178cm、102kgだ。

今のプロレス界は、やや無差別級時代だが、やはり、スーパーヘビー級戦は楽しい。（終）

2019年12月14日（土）

NWA Power について。（NWA も強引に復活なのか？）スリングブレイドはなしだろ！

私は知っているようで、あまりプロレスの歴史を知っているわけではない。

昔は、アメリカでは、NWA、AWA、WWWF（今の WWE）というメジャー3団体があった、ということは知っている。

AWA はそんなに名前が残っているかは疑問だが、WWE は1人勝ちした。そして、NWA は、昔あまりにも有名だったせいか、TNA という団体で NWA 世界ヘビー級王座が継承されたりしていた。日本の有名な選手でも、NWA のベルトを獲った選手は多い。

そんな、NWA の番組を現代版に復刻する為か、NWA Power という番組が近頃放送をスタートした。私もユーチューブで見えていたら知った。

昔のように、テレビ局のスタジオのような場所にリングを置いて、リングの周り360度中、180度をお客さんが座って観戦しているスタイル。さくらの客かもしれない。

日本の音楽番組、ミュージックステーションで言えば、お客さんの人数はどうでも良くて、とにかくファンが入って、盛り上げてくれれば良いという仕組みと一緒だと思う。

要は、プロレスの試合はするが、視聴者向けのテレビ番組の形だ。

だいたいのは、司会が、リングの前で話しているが、すぐに、プロレスラーが現れて、マイクなどでトークを展開する。すると、反対側から、（もしくはいきなりリングから）対戦相手が話しだし言い合いになる。そして、試合へと移行していくという流れだ。

注目は、王座ベルトは、昔の NWA 世界王座ベルトを継承して戦っているのか？ それとも、新しい関係のない新しいベルトを NWA 世界王座ベルトと名乗って使っているのか？（シングルにしても、タッグにしても）私の中では、それだけでもこの団体 NWA Power を見る価値が変わる。

先日、NWA Power～エピソード9～を見ていたら、おそらくかつて活躍して歳を取ったロックンロール・エクスプレス（リッキー・モートン&ロバート・ギブソン）の2人が、メインイベントの NWA 世界タッグ王座戦に勝利した。すると、観客が「9 time！ 9 time！」と沸き上がったので、ベルトは新しいか古いかはともかく、昔のロックンロール・エクスプレスの記録が反映された形になっていた。

あとは、リング上は危険な大技も封印している。ラリアットや丸め込みですぐ決着となる。若いリッキー・スタックスというレスラーが、棚橋弘至の技、スリングブレイドを出した時は、私は違和感を覚えた。オールドにこだわって欲しいが、それくらいはありかな。（終）

8、フリー & トリビュート & CMLL、男女プロレスラー。

2020年4月20日（月） フリー・男子

最近のグレート・ムタの、水戸黄門のような戦いにハマる。

グレート・ムタとは、武藤敬司の化身である。

私は、20年近くプロレスを見ているが、ペイントレスラーやマスクマンがそんなに好きではなく、素顔のプロレスラーが好きだった。しかし、最近その考えが変わってきている。

もちろん、素顔の武藤のファイトも好きだが、レジェンドとして海外などの試合で呼ばれて、そこで戦う時は、必ず、武藤ではなくムタで戦う。

以前は、日本のリングで丸藤正道と一騎打ちをおこなったムタだが、やはり攻撃を受ける時間も多し。そして、リング下などを物色している。今までは、毒霧だけを使っていたが、最近のムタは一瞬で「パチッ！」となる火を放って相手にダメージを与える。その後はタイミングを見て、毒霧を放ち、シャイニング・ウィザードで3カウントを奪う。この試合展開は日本でも海外でも基本的に変わらない。

先日もUPW（アルティメット・プロ・レスリング）のユーチューブの映像があったので見た。今、2020年だが2018年くらいとちょっと古いものだったが、海外でもムタは、ファンから尊敬の目で見られる。頭巾をかぶってゆっくりと、ゆっくりと、入場してくる。ちなみに、この試合はタッグマッチだったが、2020年現在はWWEで活躍している、ジョン・モリソン（元、ジョニー・ナイトロ）というイケメンのスーパースターが1人相手にいた。

試合が始まると、老練のムタのスローペースな動きに対して、他の3人はまだ機敏なので、スピードが違う展開になる。ムタは慣れたもので、だからといってスピードを合わせようとか慌てる素振りはない。ずっと場外戦が続いたが、私はまったく飽きなかった。昔は、私はこのムタの場外戦が嫌いだったのかもしれない。それが今となっては、少し目が肥えたのか、「これがいいんだよ」と思えるようになった。もちろん、そのあとのムタの水戸黄門でいうところの印籠に期待しているからだ。

ムタの相棒がリングに入り、相手2人につかまり、なかなかタッチができない。その状態がずっと続いて、ファンのフラストレーションを上げるパターン。そして、いよいよ、ムタにタッチすると印籠TIME。ムタは相手のモリソンに火を放ち、モリソンはダメージで場外に脱落。そして、もう1人に毒霧を吐くと、シャイニング・ウィザードを決めて、最後は仲間の1人が必殺技でフィニッシュを譲り受け勝利。ムタは少しリングで味わうと、ゆっくりと1人で客席の通路を歩いていった。観客からは「サンキュー、ムタ！」コールが響いた。

ムタはやられ、火を出し、毒霧、シャイニング・ウィザード。でもそれが楽しい！（終）

2019年8月26日（月） トリビュート・男子

“生傷男” ディック・ザ・ブルーザーの貫禄について！

以前から、私はちゃんと本を読んだりしなかったから、ディック・ザ・ブルーザー（以下、ディックと書く）とブルーザー・プロディの違いがわかりにくかった。今では、はっきりと違いはわかる。

『プロレス入門』（斎藤文彦／ビジネス社）参照。（以下、筆者、私の文）

で、そのディックの髪を剃り上げ、顔をしかめて、葉巻をくわえて、黒いショートパンツに大きな肉体で、ベルトを巻いている写真があり、貫禄が凄くて、非常に怖い、強そうだ、という物を感じる。私は、今までで一番迫力を感じたプロレスラーかもしれない。

意外にも身長は180cmとそこまで大きくはないが、体重は130kg位あるようだ。

ディックはもう亡くなっているが、リック・フレアーが20歳年下だったというから、だいぶ昔の人になる。

タッグパートナーと言える人物もいて、クラッシャー・リソフスキーという。体格も顔つきもディックとリソフスキーはそっくりだ。『プロレス入門』に「血縁関係はないがイトコ同士ということになっていた」と書いてあったのも頷ける。

ユーチューブで日本プロレス時代のディック&リソフスキー — ジャイアント馬場&アントニオ猪木の試合を見たが、私が思った程、メチャクチャなファイトをするわけではないなと思った。リソフスキーはタイツに凶器を隠したりして、殴るから猪木が額から血を流したりしていた。

ディックは、必殺技にアトミック・ボムス・アウェー（フットスタンプ）という攻撃を持っているようだが、ウィキペディアなどで調べると、その技の他に、パンチ、キック……などが得意技になっていて、私は「やはりディックはそっちのほうが似合うな」と思った。

ユーチューブでは、他にも、馬場 — ディックの、インターナショナル選手権のシングルマッチがあった。ここでもディックは今で言う煽りVTRでは、馬場の写真を破ったりして、ビール瓶の液体を飲み干していた。しかし、試合では結構、まともに3本勝負を戦っていた。馬場にはさすがに身長の間では敵わなかったが、互角に渡り合った。

“生傷男”ディックはヤバイが、190cm以上あったらもっとヤバかっただろう。（終）



2020年2月6日（木） フリー・男子

スコット・スタイナーは、最凶の力こぶを持つ、銀色の番犬！

2000年、“銀色の番犬”スコット・スタイナーの破壊者リスト。

「スティング！ ブッカーT！ ゴールドバーグ！ シッド・ビシヤス！ ケビン・ナッシュ！ DDP（ダイヤモンド・ダラス・ペイジ）！」

と、WCWで、毎週のようにマイクで叫んでいた。

そのスコットは、もう57歳になるというのに、最近NWA POWERとして新しく始まった番組に出場して、早くもベルトも獲得していた。NWA POWERでは、スコットは、ピー音が鳴り響くマイクアピールを連発する。試合では6人タッグマッチに出場したが、更に体中のタトゥーが増えていたが、身体は露出せず、上半身にもコスチュームをしていた。役どころはやはりヒール（悪玉）の方についていた。

私は、2000年にWCWでスコットを知ったから、90年代の日本での、スタイナー・ブラザーズ（リック&スコット）ー ハセケン（馳浩&佐々木健介）などは有名のようだが、あまり知らない。蝶野正洋率いるTEAM 2000に少しだけ提携メンバーとして、スタイナー・ブラザーズが加入したのは知っている。

スコットの筋肉は凄すぎるし、力こぶは取れそうなくらい大きい。ステロイドを使ったか、使っていないか、なんてことは私にとってはどうでもいいのだが、ステロイドを使っていない身体だったらありえない（笑）と思ってしまう。力こぶは取れそうなくらい大きいと書いたが、先日亡くなられた宍戸譲さんはテレビで見えていたら、頬っぺたが膨らんでいるので豊頬（ほうきょう）手術をして切断したようだが、スコットの力こぶも宍戸さんの頬っぺたのように大きい、と思うと想像しやすい。少し宍戸さんに失礼だが。

スコットは昔、WWEにいたかは知らないが、2000年代、FA（フリーエージェント）という形で、WWEにやってきた。そして、ヒールで世界ヘビー級王者のトリプルHと、腕立て伏せや腕相撲などで争いながら、何回か世界ヘビー級王座に挑戦したが、結局ベルトは奪えず、いつの間にかポジションは下がり、スコットとテストが、ディーバのステイシー・キープラを巡る三角関係の恋愛物語に発展、抗争して、やがてWWEを去った。

その後は、TNAなど、インディー団体にいたりして、今はNWA POWERにいる。存在だけで楽しい。（終）

2020年3月24日（火） フリー・男子

プロレスラー、アレックス・ハマーストーンは、私の中でドラフト1位の逸材！

アレックス・ハマーストーン（本名：アレックス・ローデ）は、リングネームが他にも、アレクサンダー・ハマーストーン。ハマーストーンと呼ばれる。

アメリカ合衆国出身のプロレスラー。

29歳で、身長193cm、体重114kg。と大きい。

顔はジュシュ・バーネットみたいな顔つき。ヒールを演じているかもしれないが、アメリカ人のハンサムなベビーフェース的、存在だ。

2013年にデビューして、2017年にINOKIISM 両国大会で初来日。2019年にMLWに参戦して、7月にプロレスリング・ノアに初参戦した。

私が見たところ最近では、MLWとPCW ULTRAに出場している。

MLWでは、3～4人程のダイナスティーというユニットのメンバー？ か不明だ。

確かにレスリング技術を見ると、普通くらいという印象だ。喋りや演技もごく普通。

しかし、パワーファイトが売りで、フィニッシュ技、ナイトメア・ベンジュラムという（ブレンバスター気味に抱え上げて、前に落とす技）。シットダウン・パワーボム。フロント・スープレックス、そして、ドロップキックもけっこう上手だ。

私が、スカウト、偵察という視点から見ると、これだけのイケメンと体格、まだ29歳という面を考えると、MLWやPCWで戦っているのはもったいない。

日本では早くもINOKIISMの団体と、ノアが参戦させたようだが、見る目がある。あとは、もう少しレスリングが巧ければと感じる。

WWEや、AEWは触手を伸ばさないのか？ といつもの調子で私はすぐにアメリカメジャー団体へ入るべきだ、という考えになってしまう。

おそらく、WWEやAEWもハマーストーン存在に気づいているだろうが、WWEとしては今はいらないと判断して、AEWならもしかしたら獲得に動くかもしれない。新日本プロレスも獲得に動くことはなさそうだ。

ジョシュ、ジェフ・ジャレット、クリス・ジェリコ、ドルフ・ジグラー、“ハンゲマン” アダム・ペイジ……などと似たようなタイプの、金髪で白人のかっこいいハマーストーン。

今29歳、これから先、どこの団体に上がって活躍していくか、注目の一人である。（終）

2020年5月29日（金） CMLL・女子

下田美馬の、猛武闘賊（ラス・カチョーラス・オリエンタレス）、“美しき女豹”。

下田美馬は49歳であるが、“美しき女豹”だ。

私は、2000年頃は女子プロレス団体、GAEA JAPANを追いかけていた。テレビで少し全日本女子プロレス（全女）を見て、スカパー！でアルシオンも少し見ていた。2020年からはスターダムをテレビで見て楽しんでいる。だが、この4団体に下田が所属している時期を見たことはなかった。それでもなぜ、私は下田の存在を知っているのだろうか。

下田は今、メキシコのCMLL所属のようだ。やはり、私は下田のちゃんとした試合をもしかしたら、一度も見たことがないかもしれないけど、存在は知っている。私の中では女子プロレス界ではレジェンド（伝説）の存在だ。

それを象徴するのが、猛武闘賊（ラス・カチョーラス・オリエンタレス、一以下、ラスカチョ）というユニットである。北斗晶と三田英津子が組んでいたが、そこに下田も加わったというのが正式な形だ。下田と三田は、全女でお互い同期入団でデビュー戦を戦った関係だ。北斗が一時引退して、ラスカチョは解散するかと思われたが、下田と三田はラスカチョとしてタッグを続けた。下田は166cm、62kgだが、三田は174cm、83kgで“リングの巨塔”と言われた。下田は肌が白いが、三田は黒い肌で、この2人になってからのラスカチョはさまざまなリングで、ヒール（悪玉）となって暴れ回った。2人共それぞれ、さまざまな団体の最高位王座（例えば、全女のWWWA世界シングル王座）などは獲得していないが、タッグ王座は数多く獲得している。2000年には下田と三田の2人で、プロレス大賞を獲得している。三田が2009年に引退した為、事実上のラスカチョは解散となった。下田は今も現役を続けている。

かなり前になるが、無観客試合で、「スターダム、スペシャル時間差バトルロイヤル」が行われた。15番目に突然のサプライズ登場したのは下田だった。下田は様子を見ながら、夏すみれに背後からイス貫通の一撃でフォール～体固め。下田は中野たむに足をかけられうつ伏せになると、5人に背中を順番におてんばダッシュで踏まれた。しかし、下田はたむをオーバー・ザ・トップロープで退場にした。下田と、（中西百恵）改め大江百恵が久々の再会にハグをしていた。そして、下田はかかと落としを3人に1発ずつ与えた。しかし、下田は、トップコーナーに座っていたところを上谷沙弥のドロップキックで落とされて敗退した。残り4人だった。惜しい（笑）。

私は、若い頃の下田は知らないが、昔も綺麗だっただろうし、今も美しい。そして、大人の色気がある。なんといってもラスカチョとか、レジェンドという響きがお似合いだ。（終）

9. コラム。

2019年7月29日（月）

ASUKA とビル・ゴールドバーグの連勝記録！ピート・ローズとイチローの通算安打記録！

1997年6月24日、WCW マットで、ビル・ゴールドバーグが“ネイチャー・ボーイ”バディ・ランデルを破り、新人（ルーキー）からの無敗記録をスタートした。約1年後の1998年7月6日には、ハルク・ホーガンを破り、WCW 世界ヘビー級王座に輝いた。しかし、1998年12月27日、ケビン・ナッシュに敗れて、新人からの連勝記録は173連勝でストップした。

ASUKA は2015年10月7日のダイナ・ブルックとのWWEの“NXT”でのデビュー戦から、新人からの連勝記録を続けていた。2017年5月20日の試合で勝利して、ゴールドバーグの173連勝を抜き、174連勝を記録した。2018年4月8日、ASUKA がシャーロット・フレアーに“レッスルマニア 34”で敗れて新人からの連勝記録は267-0（267連勝）でストップした。

もし、強引に懸念を上げるとすれば、ASUKA は、“NXT”というWWEのファーム団体を含めた数字であったことだ。ゴールドバーグも結果的にはWWEに吸収されたWCWというマットではあったが、メジャー団体であったということ。

で、もう1つ挙げるとすれば、当時は男子レスラーのほうが女性レスラーよりも、格段に人数が多く、レベルも高かったことが挙げられる。

それを踏まえて、『イチローの功と罪』（野村克也／宝島社新書545）。（参照、私の文で）。メジャーリーグで、メジャーリーグの通算安打記録を持っていたのは、ピート・ローズの4256安打だった。イチローさんは9年日本でプレーした後、17年メジャーでプレーした。イチローさんはメジャーで3089本のヒットを放った。しかし、イチローさんの意図ではないだろうがないところで、日本でプレーしたヒット数1278安打が加えられ、日米通算4367安打となり、ローズの4256安打を抜いたと騒がれた。

ローズは「自分の名前がまた騒がれるのは嬉しいが」と前置きした上で、「日本の記録も入れるなら、俺がマイナーリーグで打った427本も加えるべきだ」とクレームした。（そうすると、4683本となり、一応、改めて、ローズがトップに立つ）（笑）。

話は戻るが、ASUKAの連勝記録については、男性のゴールドバーグと、女性のASUKAに分けて考えるべきではない。で、ゴールドバーグが言った訳ではないが「俺はメジャー団体だったが、ASUKAはファーム団体を挟んでいる」とローズがイチローに言ったような面もあるのだ。ASUKAはメインロースター（1軍）では、デビュー6か月で敗北した。（終）

2019年9月19日（木）

ランディ・オートンの、ゆったりとした“間”と“リズム”は、誰にも真似できない！

日本時間の9月16日（月）に、WWE 特番の“クラッシュ・オブ・チャンピオンズ”が行われた。その日、WWE 王座戦。（王者）コフィ・キングストン — （挑戦者）ランディ・オートンが戦い、結果的には、キングストンが必殺技、トラブル・イン・パラダイスで勝利して防衛した。

私は、キングストンというチャンピオンをそんなに認めていないのだが、それを言ってもしょうがないので、オートンについて話を進めたいと思う。

オートンの“間”は独特である。武藤敬司や、武藤の化身、グレート・ムタとも少し“リズム”が違うように感じる。

例えば、仰向けに倒れている相手に、ストンプを左手に、そしてゆっくりと、左肩に、胸、右肩、右手と5つ打って行くが、こんなやり方をするプロレスラーはいない。

例えば、スープレックス（バックドロップなど）を放った後も、相手はダメージを食らい、寝ている状態だから、すぐにカバーに行くのが一般的だが、相手と反対を向いて、両手で手を払ったりしていることもある。そして、そんなに間が空いたのにも思うが、フォールをようやくすることもある。これは、プロレスラー本人でないとわからないが、遅くフォールして相手を焦らして肩を上げさせる心理戦かもしれない。もし、オートンのような一流のベテラン以外のレスラーがやったら、後で、上司に「早くフォールしろ！」と、怒られるだろう。

仕上げの部分でも手が込んでいる。また、相手が倒れている状態まで持っていくと、ゆっくりと相手に背を向けて立つ。ここで慣れたファンなら何かを感じる。するとクルッと相手のほうを向き、両腕の拳を固めてグーにして、マットを叩く、それを2、3回繰り返して、必殺技 RKO の準備に入る。そして決める時もあれば、交わされる時もある。RKO は突然放つ時もあり危険な技だ。

オートンの技では、ドロップキック、パワースラム、足をロープに引っ掛けさせての DDT という技や、RKO、そして、この日のキングストン戦でも狙って外したが、パント（キック）という四つん這いの相手に、助走をつけて、顔を下から上に蹴るという技がある。一時期は使っていたが、危険すぎる技の為、普段は出すことはなく、使ったとしても最近では空振りするというパターンになっている。

オートンは最高位王座を13回も獲得している。24歳でのWWE 世界ヘビー級王座戴冠は、最年少記録である。トリプル H から「食物連鎖の頂点に立つ男」と称えられた。

オートンはベテランになるが、まだ39歳である。こんなところでキングストンに負けていないで、改めてWWE 王座を狙って欲しい。グレート・ムタと1回対戦して欲しい。（終）

2019年10月15日(火)

オースチン、ホーガン、スティング、ブレット、マイケルズの5人だけの空間！

先日、WWEが番組中のCMで粋な計らいをした。

まず、“ストーンコールド” スティーブ・オースチンとハルク・ホーガンが、黒いスーツに、ワインを持って、会話していた。

すると、次にそこへ、スティングが顔を出した。私は次の人物を期待した。

そうしたら、ブレット・ハートが、画面左から加わった。あと1人はあの人物しかいない。

そう、ショーン・マイケルズだった。

スティングだけは、WCWでずっと活躍した人物だが、WWEでは、まず、ホーガンの時代があった。

そして、ブレットの時代。

更に、マイケルズの時代。

で、オースチンの時代。

ここに、もし、リック・フレアーがいたとしても、違和感はなかったかもしれないが、フレアーはWWEよりも、NWAやWCWよりという見方ができる。でも、NWAやWCWよりのスティングは、この5人の集まりに参加していたけど。

ジョン・シーナがいたら違うし、ザ・ロック(現、ドゥエイン・ジョンソン)も違う。

トリプルHは、オースチンとロックに対する敵役であり、D・ジェネレーションXでマイケルズと組んでいるから、この輪には微妙にふさわしくないのかもしれない。

ジ・アンダーテイカーは、本当はふさわしいのだけれど、自分がやすやすと地上に現れるキャラクターではないことを貫き、ここには登場していない。

もちろん、ブロック・レスナー、ランディ・オートン、バティスタ、カート・アングル、AJスタイルズ、今はAEWに参戦しているクリス・ジェリコ……などといった辺りもこの5人の空間にはふさわしくない。思えば、ビル・ゴールドバーグもいないではないか。

プロレスには実現して欲しくて、実現しない、実現しなかったカードがたくさんある。オースチン — ホーガンのシングルマッチは結局実現しないまま、2人は歳を取ってしまった。スティング — マイケルズのシングルマッチもおそらく実現していない。

オースチン、ホーガン、ブレット、マイケルズのWWEの時代を作った4人の中に、スティングという、WCWで活躍したアイコン(象徴)を入れたのが、オシャレすぎる。(終)

2020年5月2日（土）

棚橋弘至、オカダ・カズチカの、IWGPヘビー級王座を背負う重圧。

『ワールドプロレスリング』の放送から、

棚橋弘至：もうね（防衛ロードの）2011年っていうのは もう1回やれって言われても無理ですね ぐらい充実してました

オカダ・カズチカ：僕はもう 新日本プロレスじゃなくて プロレスを背負ってるって 自負はありましたね IWGPのベルトを長時間持つてる人っていうのは そういう風になってくるんじゃないのかなと そのキツさを知っているのは（V11達成の）棚橋さんしかいないと思うんで 棚橋さんもその時 すごかったんだなと 思いましたね

オカダ・カズチカ：ツラいっすよね 2年間も やっぱ精神的にも 肉体的にもそうでしたし でも僕の中では正直 それが当たり前になってる2年でしたね チャンピオンでいることが当たり前 ベルトを巻いて入場して ベルトを持って帰るのが当たりの期間でしたね その V12 の間 チャンピオンの意識というか そういうものを変えてくれたものですね IWGPは

ー 以上、引用。

IWGPヘビー級王座防衛記録、V11を作った棚橋と、V12を作ったオカダに共通することは、団体のトップとしてベルトを守り続けるということは、相当しんどいということだ。

棚橋は「もう1回、あの防衛ロードをやるのは無理ですね」と話している。

オカダも「棚橋の気持ちがわかる」と発言した上で、「あの2年間は精神的にも肉体的にもツラかった」と語る。その上で「当たり前になり、チャンピオンとはどういうものかがわかった」と語っている。

これはIWGPヘビー級王座の話だが、それは、WWEであろうが、AEWであろうが、女子プロレス団体、スターダムであろうが、どこの団体でも、トップのベルトを持って、防衛を続けるというのは大変だと思う。ファンの支持を得なくてはいけないし、会社の考え方にも沿わないといけない。やはり、集客力がなくてはならない。ライバルレスラーもたくさん現れる。病気や怪我もできない。だから、チャンピオンは偉大なのだ。（終）



2020年5月6日（水）

武藤敬司、棚橋弘至の、プロレスラーが映画で演じるのは難しいこと。

『さよならムーンサルトプレス 武藤敬司 35年の全記録』(福留崇広／イースト・プレス)

武藤敬司、主演映画『光る女』。

武藤：「無性にこの映画壊してやろうと一瞬思ってさ。撮影をボイコットするって言って、走って逃げていったんだよ。助監督とかみんな追いかけてきたんだけど、(中略) ホテルでスタッフが一生懸命説得してきて、現場に戻ったら、なんてことはない。スタッフはみんな、オレが完璧に100パーセント戻ってくると思って、準備を進めていたよ(笑)」。

武藤：(映画とプロレスの違いは)「プロレスはライブ、生なんだよ」。

『カウント 2.9 から立ち上がれ 逆境からの「復活力」』(棚橋弘至／マガジンハウス)

棚橋弘至、主演映画『パパはわるものチャンピオン』について。

棚橋：最後の撮影のあと、スタッフの方から花束を渡されると案の定、僕の涙腺は一気に崩壊した。(中略)「40歳にもなっても……こんなにも一生懸命になれることがあって……、凄く嬉しかったです……。ありがとうございました！」心から出た言葉だった。

ー 以上、引用。

武藤が、なぜかはわからないが、最後の撮影の雰囲気暗くて、突発的にボイコットする描写が面白い。ストレスがあったかはわからないが、主演は、大変だったのだろう。

棚橋も、主演を任されたが、プロレスラーでなくても、最後のクランクアップは、荷も下りて、非常に感激するのだろう。

私は、映画の世界はよくわからないが、極端に言えば、いわゆるプロレスラーがMMAの舞台に挑戦するようなものかもしれない。(ちょっと違うか?)

海外では、WWE から、ザ・ロック (現、ドゥエイン・ジョンソン) や、“ストーンコールド” スティーブ・オースチン、デイヴ・バティスタ、ジョン・シーナ、昔のハルク・ホーガン……なども出演しているが、アメリカ人は結構ノリでこなせそうだが、慣れない日本人のプロレスラーは難しそうに見える。(終)

2020年5月13日（水）

ベッキー・リンチ妊娠！ よって ASUKA がロウ女子チャンピオン、女子部門制覇！

日本時間で5月12日（火曜日）の WWE “ロウ” に、まず、ロウ女子王者のベッキー・リンチが登場した。ベッキーは去年の“レッスルマニア 35”の、対“ラウディ”ロンダ・ラウジー — シャーロット・フレアーとの 3WAY マッチの 2 冠戦で王座を獲得して、今年の“レッスルマニア 36”でもシェイナ・ベイズラーを破り、ロウ女子王座を1年以上防衛し続けた。次に、特番のマネー・イン・ザ・バンク戦でかぼんを獲得した ASUKA が登場した。ASUKA が獲得したこのかぼんは、いつでもどこでも女子王座に挑戦できるかぼんだ。しばらくリング上で、ASUKA が喜んで雄叫びを上げて、ベッキーをうかがっていた。

すると、ベッキーはやや感極まったように、ASUKA に話しかけると、かぼんの中にはロウ女子王座のベルトが入っていた。ベッキーは ASUKA に「ロウ女子王座を受け取って欲しい」と喋りプレゼントした。ベッキーのお腹の中には、おそらくパートナー（父親）が、同じ WWE 所属のセス・ロリンズだと思われるが、その子供が宿っていた。

ベッキーは妊娠という理由で、しばらくの間は WWE を休養するということになり、私としては、ベッキーは大好きな女子スーパースターだったので、少し残念だがおめでたいことだし、また戻ってくることを期待して、元気な赤ちゃんを産んで欲しいと思った。

ベッキーは、新型コロナウイルスの影響で、最近は毎回パフォーマンスセンターの無観客でプロレスが行われている客席やリングを見回して、バックステージへ去っていった。

バックステージでは、多くのスーパースターズが集まり、ベッキーを祝福した。

一方で、ロウ女子王座を預かった ASUKA は、「ヨーシ！ ヨッシャー！」などと叫びながら、ベッキーをねぎらったあともリング上で喜んだ。「これが欲しかったんだよ！」と日本語で喋っていた。バックステージに戻ると、カブキ・ウォリアーズの仲間のカイリ・セインが「えっ！ えっ！ 凄い、どうしたの！ やったね！」と ASUKA を祝福した。

ASUKA は、NXT 女子王座、女子ロイヤルランブル戦優勝、WWE・スマックダウン女子王座（女子最高位王座の1つ）、WWE 女子タッグチーム王座、そして、WWE・ロウ女子王座（女子最高位王座の1つ）を獲得して、（ザ・ミズとのコンビで男女ミクストマッチチャレンジ優勝もある）。これで、グランドスラム達成である。（唯一、メイ・ヤング・クラシックだけは獲っていない）。こうなると、一応はやるべきことはほぼ済んだから、ASUKA はもっと自由な行動を起こせるかもしれない。昔のビューティ・ペア（ジャッキー佐藤&マキ上田）やクラッシュギャルズ（長与千種&ライオネス飛鳥）を超えたかもしれない衝撃だ！

ベッキー妊娠おめでと！ ASUKA は防衛など、これからも暴れまくって欲しい！（終）

2020年5月24日（日）

WWEを継ぐのは、マクマホンか？ レヴェックか？

ビンセント・ケネディ・マクマホン（今のビンス・マクマホン会長）に対して、「WWEの跡継ぎは誰になるのですか？」という質問に、ビンスは、「マクマホンか、レヴェックになるだろう」と答えたという。

この回答には、WWEの3人の跡継ぎが考えられる。まずは、四代目にあたる、シェーン・マクマホン。その妹のステファニー・マクマホン＝レヴェック。娘婿のポール・マイケル・レヴェック（トリプルH）だ。ちなみにステファニーとトリプルHは夫婦である。

私が読んだ本では『マクマホンか、レヴェックになるだろう』という、ビンスの回答は、つまり、シェーン・マクマホンか、ステファニー・マクマホン＝レヴェックになるということだろう」と書いてあったが、私はそれに加えて、トリプルHが次のWWEの跡継ぎになることも考えられると思う。正統な血縁のマクマホン時代が終わるのだ。

初代ジェス・マクマホン。2代目、ビンセント・ジェームス・マクマホン。3代目、ビンセント・ケネディ・マクマホン。と来て、4代目もビンスとしては、シェーンに継がせるのが理想だろう。だが、ステファニーの性格がビンスに似ていることや（笑）、トリプルHがCOO（最高執行責任者）として力を発揮したり、ビンスとトリプルHで、“NXT”を作ったりしたことからも、トリプルHを跡継ぎにすることがいいのかもしれない。

それは、もしかしたら、シェーンも目立たないで頑張っているが、“獅子の子落とし”ではないが、シェーンでは面白いWWEを創ることができない。トリプルHなら面白いWWEを創ることができるというビンスの判断かもしれない。それが理由なら1番いいのは、ステファニーを跡継ぎに置けば、シェーンもトリプルHも面目が保てるということはあるかもしれないが、兄のシェーンは、妹に譲るのも本心では嫌だろう。

シェーンは2010年～2016年の6年間、WWEを離れた時期があった。もしかしたら、その以前にビンスから、「シェーン、お前には跡継ぎはさせない」ということづけがあったのかもしれない。本当は何があったのかはビンスとシェーンくらいしかわからない。そして空白の6年間があったが、シェーンは2016年から改めてWWEマットに登場している。

その時、シェーンはオーディエンスの前で、「WWEはずっとマクマホンが継承していく。4代目も俺がなり、それ以降も俺の3人の息子が継ぐことになるだろう」と話していた。

誰が跡継ぎでもいい。シェーンのWWEも、ステファニーのWWEも、トリプルHのWWEも見たい。ならば3人で番組を今の3番組“ロウ”、“スマックダウン”、“NXT”に分けて視聴率戦争をする。その中で一番人気の高い番組を出せる人物が、引き継げばいいだろう。（終）

2020年5月30日（土）

ASUKAは落語家前座で笑わせる。カイリ・セインの縦笛。柴雷イオ NXT 女子王座戦間近。

WWEの、ASUKAはウィキペディアで調べると、大阪府大阪市出身で、落語家前座ということをやっていたようだ。だから大阪ということで決めつけるわけではないが笑いの血が入っているのかもしれない。

最近、WWEを見ていると、特に私が感じるのは、ASUKAとシャーロット・フレアーがリング上で喋る時、とにかく、ASUKAは日本語や英語でペラペラと言葉を発し続けているから、シャーロットがカメラに映ると、少しASUKAの言葉に対して、シャーロットが笑いそう（吹き出しそう）になっているのを、こらえているように見える（笑）。シャーロット以外の女子スーパースターズはわからないが、今後もASUKAのこの落語家前座で鍛えられたであろう、大阪の笑いに、シャーロットが笑い出さないか？ に注目したいと思う。

最近、カブキ・ウォリアーズ（ASUKA&カイリ・セイン）に対して、ナイア・ジャックスが絡むようになってきた。ある日は、ASUKAのロウ女子王座に対して、ナイアが登場したが、リングではカイリが縦笛（たてぶえ）で、カブキ・ウォリアーズの入場テーマ曲を吹いていた、その時はそれで終わった。だが、番組中、カイリがバックステージで縦笛を吹いていると、カイリがナイアに背後から襲撃された。番組が進むと、ASUKAが怒りナイアを見つけると、「お前、カイリに何したんじゃあー！」と恐ろしく襲いかかり、巨体のナイアに仕返しをした。童顔のカイリが縦笛を、一生懸命に子供のように吹いている姿はかわいかった。

柴雷イオが決戦に臨む。日本時間6月8日（月曜日）。NXT 特番テイクオーバー“イン・ユア・ハウス”で、NXT 女子選手権。3WAY 戦。（王者）シャーロット・フレアー — （挑戦者）リア・リプリー — （挑戦者）柴雷イオの試合が組まれた。私は、今回はいよいよイオがNXT 女子王者に輝くのではないかと期待している。

というのは、この唐突にイオが選ばれていることもそうだろう。そして、以前のNXT 女子選手権で、シャーロットがイオから反則をして王座を防衛したことも、シャーロットがイオからはシングルマッチで、実力で奪われないという商品価値の問題もあったと思う。

リア — イオの試合も、シャーロットが乱入し、リアに攻撃して、ノーコンテスト裁定となった。

最近のタッグマッチでは、リアとイオが組み、シャーロット組と戦ったが、シャーロットがロープに足を乗せてリアから3カウントを取るなど、シャーロットとリアの間がギクシャクしている。だから、その隙にイオがシングルではなく3WAY 戦なら獲れるのではないかと

この日本人の3人のWWEの女子スーパースターズが楽しませてくれる。益々応援！（終）

2020年6月8日(月)

柴雷イオ、遂に WWE のタイトル初獲得、NXT 女子王者へ！

イオが NXT 女子王座のベルトを持って、インタビューに答えている映像を見つけた。まず、英語で喋り、日本語で喋り、最後は英語で喋った。

この日は、WWE、NXT 特番、テイクオーバー “イン・ユア・ハウス” という名前の番組。NXT 女子選手権。(王者) シャーロット・フレアー — (挑戦者) リア・リプリー — (挑戦者) 柴雷イオという 3WAY マッチ。

WWE の NXT は頑なに、この日の試合をユーチューブに上げてくれなかった。この王座戦の途中の映像で 3 選手が入り乱れて争い、シャーロットがイオをエンタランスの部屋の中に投げ飛ばしたシーンだけは確認できた。

私は、この NXT 女子王座戦にシャーロット — リアだけでも可能なのに、イオを参加させていることから、イオが王座を獲得する可能性は高いと見ていた。でも、3 人が並ぶと、シャーロットもリアも 170cm 台と身長が高いのに対して、イオは 156cm とどうしても身長が低いことは気になった。でも、私は、イオのベルト獲得はあるような気もしたが、シャーロットが防衛してしまうケースも十分考えられると思った。リアが勝つことはないだろうと 100% くらいに思ってしまった (タイミング的に)。

NXT ネットワークは試合の決着の技を映してくれなかったので、イオがどのようにして勝ったのかわからない状態だ。わかったのは、イオが NXT 女子王者に輝いたという情報だけ。

でも、これで、ASUKA、カイリ・セインに続き、イオも NXT 女子王座を獲得したし、イオとしてはメイ・ヤング・クラシック 2018 も、トニー・ストームに敗れて準優勝だったから、初めての WWE でのベルトやトーナメントを含めてのタイトルとなった。

この試合の前でも、ナタリアなどは「イオは非常にレスリングの才能がある。今度、勝つのはイオだろう」と話していたし、イオ自身もヒールながら、「次は、私が必ず勝つ！」と宣言して挑んだ試合だった。

イオは小柄だが、イオが愛する猫のように、俊敏な動きをして、前転、側転などは華麗すぎる。レイ・ミステリオのような 619 や、ムーンサルト・プレスも華がある。

今後は、シャーロットが NXT から出るか、出ないかで、イオの立場も違う。シャーロットが NXT に参戦すれば、イオの防衛ロードは厳しくなるが、参戦しなければ多少は、防衛ロードは緩(ゆる)くなるかもしれない。

その後、この番組のハイライトが放送された。メインイベントで、シャーロットがリアにフィギュア 8 をかけているところに、イオがリアにムーンサルト・プレスを決めて 3 カウント。という試合だった。エンディングでは銀色の紙が場内へばらまかれ、実況も「finally (ファイナリー/遂に)」と語り、リングではイオが NXT 女子王座ベルトを掲げて喜んだ。(終)

2020年6月11日（木）

大仁田厚の、「電流爆破にぶつからなかった長州力はチキン！」発言。

かつて、2000年7月30日に現役復帰した長州力と、大仁田厚がノーロープ有刺鉄線電流爆破デスマッチで一騎打ちをおこなった。私は、この新日本プロレスの試合を横浜アリーナまで生観戦しに行った。結果は、大仁田の5回の被ばくがあったのに対して、長州力は一度も電流爆破にぶつかることはなく、最後は長州がサソリ固めで、レフェリーストップ、TKO勝ちを収めた。

最近の大仁田の発言では、「長州力は、チキンだよ、一度も電流爆破に飛び込まなかったのだから」という趣旨の発言をしている。確かにファン心理としても、あの長州が電流爆破に突っ込んでどんな反応をするのかも見たかった。

だが、長州の立場で考えると、久々の復帰戦でもあるし、万が一、電流爆破に突っ込んでダメージをくらって、おそらく格下という扱いで見ていた大仁田に負けることだけは許されないという緊張感もあったのかもしれない。長州としては圧倒的な形で大仁田に勝つということが、この試合での自分なりの条件である。それが、あの時の長州の電流爆破には飛び込まないという姿だったのかもしれない。長州にしたって、少なからず、有刺鉄線を含め電流爆破は、それなりに痛いし怖いものでもあっただろう。1995年10月9日、東京ドームの、新日本とUWFインターナショナルとの全対抗戦で、長州が安生洋二に圧倒して破ったように、長州には圧倒して勝ちたい、というものがあるのかもしれない。

大仁田は、蝶野正洋に対しても、「蝶野もあんな分厚い服を着て（袖はなかったが）、あれもチキンだよな」と語っている。蝶野は分厚い服を着ていたが、何度か電流爆破に飛び込み、大仁田と、両者10カウントノックダウンのKOで引き分けに終わっている。

大仁田は、「電流爆破に入る人間を見れば、その選手の人間としての大きさがわかる」、「チキンなのか？ 心臓に毛が生えているのか？ がわかる」ということを語っている。

大仁田に言わせると、「高山善廣や曙は、電流爆破に頭から突っ込んでいって、度胸があると感じたが、タイガー・ジェット・シンはチキンだった」と語っている。

今、WWEで活躍する紫雷イオも電流爆破の経験があり、ヒザに火傷を負った。だから、その度胸で、今があるのかもしれない。

長州はチキンともとれるが、私は、あの圧倒的な勝ち方が必要だったとも感じる。（終）

2020年4月24日（金）

アントニオ猪木 対 ビンス・マクマホン。(プロレスラーとして、経営者として)。

アントニオ猪木は、ビンス・マクマホン会長が率いる WWE で、殿堂入りを果たしている。そんな2人を比べて、戦わせるのも変だがやってみる。

猪木は今、77歳。

有名なプロレスラーだったが引退している。新日本プロレスを立ち上げ、初代 IWGP ヘビー級チャンピオンを初め、さまざまなベルトを巻き、いろんな相手と戦った。異種格闘技戦も数多くおこなった。WWE (WWF) ヘビー級王座を獲ったが消された可能性もある。

ビンスは今、74歳。

現在も WWE の会長だが、レスラーとしてはミスター・マクマホンの名で登場していた。トリプル H からピンフォールを奪い、WWE 王座に輝いている（すぐに返上した）。ロイヤルランブルマッチにも登場して、ビンスは実況席に座り、最後のレスラーが忘れた頃にリングに上がり、レスラーを場外へ追放して優勝した。IWGP ヘビー級王座は獲得していない。

この2人が、もっと若い頃に、プロレスのリングで戦うとしたら、猪木としてはストロングスタイルを魅せたいだろうし、ビンスは猪木とまともに戦って勝てる相手ではないので、さまざまなルールを要求するだろう。

だが、猪木も新日本ならストロングスタイルで圧倒すればいいが、WWE で戦うなら、猪木は頭がいいから、アメリカンスタイルのレスリングを魅せるかもしれない。

猪木が卍固めや、コブラツイスト、延髄切り、魔性のスリーパー……などでビンスを破るのが一番面白い展開だ。だが、猪木がビンスの仕掛けた罠（乱入など）で追い詰められてピンチになるシーンも見たい。でも、最後はやはり猪木が勝利という筋書きが面白そうだ。

プロレスの経営者としては、猪木の発想も面白い。時にシリアスで、凄惨な試合になってしまうので、そういう試合は避けたいがしょうがない。しかし、経営者より猪木はレスラーである方が向いている。今、猪木は離れたが新日本はまだ団体として続いている。

ビンスは、やはりプロレスの経営者としては一流だろう。会長として、最終的な団体の決定権を持つのは猪木と一緒にだったが、WWE ではビンスに逆らえる者はいない。少しワンマンの会長に見えるが本当のところはわからない、その好き嫌いはあるだろう。

猪木 対 ビンスは、プロレスラーは猪木。経営者ではビンス。という決着になる。(終)

2020年6月25日（木）

私は、オカダ・カズチカが、チャンピオンではなくても、チャンピオンと呼ぶ。

新日本プロレス所属のオカダ・カズチカは、“レインメーカー”と呼ばれている。

天龍源一郎はオカダと引退試合で戦って、「オカダ！ お前は“平成のかっこいい男だよ！”」と語った。

ジョン・モクスリーも「あいつは（オカダは）“超人”だ！」と言った。

私は、今のオカダを“チャンピオン”もしくは“ザ・チャンピオン”と呼びたい。

もちろん、今の新日本プロレスのIWGPヘビー級王者は内藤哲也であるが、先日、『ワールドプロレスリング』の放送で、オカダが戦っている姿を見たら、私は、オカダは丸腰で王者ではないのに、「チャンピオンはやっぱり凄い！」と少しわざとだが、喋っていた。しかし、そこに違和感はなかった。自然と画面から受け取り、喋った言葉だった。

例えるならば、野球人のイチローさんが、第1回WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）で、王貞治さんが監督を率いたことで、イチローさんは、王さんのことを「王さん」とは呼ばないで、「王監督」と呼び続けている例がある。

長州力も、アントニオ猪木に対しては、一貫して「会長」と呼び続けている。

話は戻るが、オカダは私がブシロード体制の新日本を見続けてからは、ほとんどIWGPヘビー級王座のベルトを巻いていた。もちろん、この中にはIWGPヘビー級王座連続防衛記録12回も含まれるし、多くの戴冠、防衛記録も含まれる。

オカダを見ていると、ベルトを巻いていないと似合わないという気がする。だから、ベルトを巻いていようが、なかろうが、チャンピオンという称号を与えてもいいだろう。

もちろん、いつか、内藤かはわからないが、誰かが持つIWGPヘビー級王座に挑戦する時は、チャンピオン — チャレンジャーだが、私の中では、チャンピオン — チャンピオンという図式に見えてしまうだろう。

内藤の2冠王者（IWGPヘビー級&IWGPインターコンチネンタル）をどう使うか楽しみではあるが、私はオカダが、“鉄人”ルー・テーズを超えるくらい歴史にしっかりと足を残し、記録と記憶に残り続ける王者になって欲しい。だから、内藤の2冠王もいいが、オカダが2冠でなくても、せめてIWGPヘビー級王者を奪い返す姿も見たい。

私は、オカダが丸腰でも、遊び心で「チャンピオンはやっぱり凄い！」と言うだろう。（終）